

平成25年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

平成25年11月

松阪市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価	
1	事業評価の方法	2
	松阪市教育ビジョン基本構想図	3
2	各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表	4～6
3	評価シート	7～50
4	総評	51
III	教育委員会の活動状況	51～52
IV	第三者評価（学識経験者の知見の活用）	
1	第三者評価委員	53
2	第三者評価	53～55
V	おわりに	56

松阪市教育委員会は、平成19年12月に将来の松阪市を担う子どもたちをはじめすべての市民が暮らしやすい、「質の高い教育・文化にふれあうまちづくり」をめざし、今後10年間の松阪市の教育のあるべき姿を構築する「松阪市教育ビジョン」を策定しました。

松阪市教育ビジョンは、「夢を育み 未来を切り拓く松阪の人づくり」を基本理念とし、誰もが心に抱いている「夢」をかなえていくための道案内を「夢ナビゲーション」と名付け、「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の3つの子ども像を実現するため、「ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の振興」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「新しい教育の創造」の6つの夢ナビゲーションを策定したものであり、教育委員会は、これに基づき、学校教育、家庭教育、社会教育などの教育機能の充実・連携を図るとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上に努めているところです。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

そこで、松阪市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様へ説明責任を果たすため、平成19年度の事務事業から「教育委員会活動の点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）の対象を「松阪市教育ビジョン」の6つの「夢ナビゲーション」とし、点検・評価を実施し、報告書にまとめ、公表してきました。

平成24年度の主要な事務事業について、できる限りわかりやすく表記することを心がけて作成しました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務〔前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。〕の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価

1 事業評価の方法

「夢ナビゲーション」別に各事業の事業目的、事業内容、検討課題、当該年度の取組、改善案・方向性と複数年にわたる事業の場合は進捗度等を点検・評価し、達成度と重要度を表にして表しました。

【達成度】 A：「達成できた」
B：「概ね達成できた」
C：「達成できなかった」

【重要度】 A：「非常に重要」
B：「重要」
C：「やや重要」

【総合評価】 A：計画どおりに事業を進めることが適当
B：目的の達成に努め、計画どおりに事業を進めることが適当
C：事業の進め方に改善が必要
D：事業規模、内容の見直しが必要

《例》

↑達成度	A			
	B			★
	C			
		C	B	A
		重要度→		

⇒

★の位置による総合評価

↑達成度	A	C	B	A
	B	C	B	B
	C	D	C	C
		C	B	A
		重要度→		

- ※ 事業年度の最終年度が未定の場合については、平成25年度と表記しています。
- ※ 単年度で完結する事業であっても、その事業が開始された年度がわかっている場合は、その年度を表記しています。

基本構想図

夢ナビゲーション

「将来の自分はこうありたい」という「夢」を抱き、その実現に向けて挑戦し続ける人は輝いて見えます。「夢」の実現という「目的地」に到着するまでの道案内を「夢ナビゲーション」としました。

夢を育み未来を切り拓く松阪の人づくり

- ★松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども
- ★思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども
- ★じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども

夢ナビポイント

夢を実現する道の途中では、自らを高めようと精一杯努力したり、時には立ち止まり迷ったり悩んだりするなどの分岐点があります。その一つひとつの分岐点において達成すべきめあてや方向性を「夢ナビポイント」としました。

※夢ナビポイントは、市民の皆さんからパブリックコメントとしていただいた教育に期待する推言を参考としました。

5

夢ナビポイント

明るい生活を支える
スポーツライフの
実現

- ①スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康づくりの推進
- ②健康・競技・娯楽としてのスポーツ環境の充実
- ③競技スポーツの振興

6

夢ナビポイント

輝け!松阪!
新しい教育の
創造

- ①松阪の教育特性を生かした教育改革の推進
- ②学びを支える教育環境の充実
- ③信頼と誇りをもてる学校づくりの推進

4

夢ナビポイント

個性あふれる
文化・芸術の振興

- ①市民文化・芸術活動の創造
- ②豊かな文化遺産の活用と次世代への継承

3

夢ナビポイント

市民による、
市民のための
生涯学習の推進

- ①生涯学習活動の推進のためのシステムづくり
- ②青少年の健やかな育ちのサポート
- ③市民が集い、学び合える環境の充実
- ④家庭・地域・社会における人権教育の推進

1

夢ナビポイント

ドキドキ!ワクワク!
学びの芽生えを育む
就学前教育の充実

- ①“キラキラ”笑顔が輝く楽しい教育内容の創造
- ②新たな子育て支援の充実
- ③子どもの成長を支える研修の推進

2

夢ナビポイント

キッチリ!バッチリ!
学びの基礎を育む
教育の充実

- ①確かな学力を育む教育の推進
- ②豊かな心を育てる「心の教育」の推進
- ③一人ひとりを大切にする特別支援教育の推進
- ④ふるさと松阪に学ぶ教育の推進
- ⑤保育園・幼稚園から中学校までのつながりを大切にした教育の推進
- ⑥みんなの人権を大切にした教育の推進
- ⑦外国人児童生徒教育の推進
- ⑧学びの世界が広がる情報教育の推進
- ⑨世界とふれあう、世界とつながる国際理解教育の推進
- ⑩松阪の豊かな自然に学ぶ環境教育の推進
- ⑪本との出会いを大切にする読書教育の推進
- ⑫将来の基礎を育むキャリア教育の推進
- ⑬健やかな心と体をつくる食教育の推進
- ⑭つながり合い、高め合う学校スポーツの推進
- ⑮豊かな教育を支える教職員研修の推進

2 各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表

(1)ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実

シート番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合評価	事業年度	決算額 (千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	A	A	A	平成16年度～平成25年度	15,940
2	子ども支援研究センター	教職員研修事業	B	A	B	平成17年度～平成25年度	1,179
3	子ども支援研究センター	教育相談事業	A	A	A	平成17年度～平成25年度	3,035

(2)キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実

シート番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合評価	事業年度	決算額 (千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	A	A	A	平成16年度～平成25年度	15,940
2	子ども支援研究センター	教職員研修事業	B	A	B	平成17年度～平成25年度	1,179
3	子ども支援研究センター	教育相談事業	A	A	A	平成17年度～平成25年度	3,035
4	学校支援課	いじめ等対策事業	B	A	B	平成21年度～平成25年度	11,905
5	学校支援課	学びのイノベーション事業	A	A	A	平成23年度～平成25年度	1,284
6	学校支援課	特別支援教育推進事業	A	A	A	平成15年度～平成25年度	48,297
7	学校支援課	読書室いきいきプラン事業	A	A	A	平成17年度～平成25年度	15,700
8	子ども支援研究センター	教育支援センター推進事業	B	A	B	平成17年度～平成25年度	2,371
9	育ちサポート室	育ちサポート推進事業	A	A	A	平成22年度～平成25年度	16,037
10	人権まなび課	外国人児童生徒いきいきサポート事業費	A	A	A	平成19年度～平成25年度	11,629
11	人権まなび課	外国人児童生徒受入促進事業	A	A	A	平成22年度～平成25年度	4,703
12	給食管理課	学校給食単独調理場備品等整備事業	A	A	A	平成24年度	5,648
13	給食管理課	学校給食センター備品等整備事業	A	A	A	平成24年度	7,479
14	給食管理課	学校給食推進委員会事業	A	A	A	平成24年度	298

(3) 市民による、市民のための生涯学習の推進

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
15	いきがい学習課	こどもまつり大会事業	A	A	A	平成24年度	1,451
16	いきがい学習課	青少年健全育成事業	A	A	A	平成24年度	6,248
17	いきがい学習課	新成人のつどい開催事業	A	A	A	平成24年度	456
18	いきがい学習課	図書館管理運営事業	A	A	A	平成21年度～平成25年度	123,169
19	いきがい学習課	生涯学習振興事業	A	A	A	平成24年度	13,388
20	人権まなび課	人権学習推進事業	B	A	B	平成19年度～平成25年度	8,568

(4) 個性あふれる文化・芸術の振興

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
21	文化課	歴史的建造物公開事業	A	A	A	平成24年度	3,774
22	文化課	文化財保存整備事業補助金	A	A	A	平成24年度	771
23	文化課	原田二郎旧宅保存整備活用事業	A	A	A	平成22年度～平成24年度	13,217
24	文化課	長谷川家文書調査事業	B	A	B	平成20年度～平成24年度	5,092
25	文化課	はにわ館開館10周年記念事業	B	B	B	平成23年度～平成24年度	2,477
26	文化課	松浦武四郎誕生地活用検討事業	A	A	A	平成19年度～平成24年度	864
27	文化課	市美術展覧会開催事業費	B	A	B	平成24年度	2,212
28	文化課	文化芸術団体共催事業	A	A	A	平成24年度	666

(5) 明るい生活を支えるスポーツライフの実現

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
29	スポーツ振興課	全国大会等出場派遣支援事業	A	A	A	平成24年度	3,899
30	スポーツ振興課	スポーツ大会等運営事業	B	A	B	平成24年度	1,483
31	スポーツ振興課	シティマラソン大会事業	B	A	B	平成24年度	3,500
32	スポーツ振興課	体育施設整備事業	B	A	B	平成24年度	42,101
33	スポーツ振興課	スポーツ少年団補助金	A	A	A	平成24年度	2,301
34	スポーツ振興課	中部台運動公園施設整備事業	A	A	A	平成24年度 ~ 平成25年度	9,231

(6) 輝け！松阪！新しい教育の創造

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
35	学校支援課	コミュニティ・スクール推進事業	A	A	A	平成23年度 ~ 平成25年度	75
36	学校支援課	郷土の偉人に学ぶ教育推進事業	B	A	B	平成23年度 ~ 平成26年度	427
37	教育総務課	小学校防災防犯対策事業	A	A	A	平成24年度	16,407
38	教育総務課	天白小学校校舎増築事業	A	A	A	平成23年度 ~ 平成24年度	127,767
39	教育総務課	小野江小学校校舎増築事業	A	A	A	平成24年度 ~ 平成25年度	8,894
40	教育総務課	中学校防災防犯対策事業	A	A	A	平成24年度	3,870
41	教育総務課	鎌田中学校校舎改築事業	A	A	A	平成23年度 ~ 平成32年度	20,302
42	教育総務課	幼稚園防災防犯対策事業	A	A	A	平成24年度	1,959
43	教育総務課	幼稚園空調設備整備事業	A	A	A	平成24年度	7,870
44	教育総務課	豊田幼稚園園舎改築事業	A	A	A	平成23年度 ~ 平成25年度	63,831

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】		番号	1		
事業名	特色ある学校・園づくり推進事業			↑ 達成度 ↓	重要度 →		
担当課	学校支援課	事業年度	平成16年度～平成25年度		A		★
					B		
				C			
予算・決算	平成23年度決算	15,040 千円	平成24年度決算	15,940 千円	平成25年度予算	16,240 千円	
事業目的	各学校・幼稚園において、幼児・児童・生徒や地域の実態に即した特色ある教育・学校づくりを推進するための創意工夫に満ちた特色かつ魅力ある教育活動を支援し、幼児・児童・生徒の生きる力の育成を図る。						
事業内容	<p>学習指導要領、幼稚園教育要領に基づき、松阪市教育ビジョンの実現を図るための特色ある教育活動を各小中学校や幼稚園で展開し、様々な体験活動を通して生きる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培・生産活動、体験活動、国際理解教育、環境教育等の実施 ・授業力向上のための講師招聘や学力調査の実施と読書活動の充実 ・郷土を愛する心を育てる郷土学習や地域との交流・ボランティア活動等の推進（幼稚園21園、小学校36校、中学校12校を対象） 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>幼児・児童・生徒の実態、地域の実情に応じた教育活動を毎年行うことができ、幼児・児童・生徒の生きる力の育成に大きく寄与している。単年度契約（市長と推進委員長）であり、前年度の成果と課題に基づき次年度の活動につなげている。昨年度の取組の成果と課題を明らかにし、更に深化させたり、新規の取組を入れたり各学校（園）改善を図り、次年度に繋げている。</p>						
検討課題	<p>この事業の目的や取組が地域や保護者に浸透してきて、地域の環境や特色、また、地域の人材をはじめとする教育資源の活用や、個に応じた指導等各学校・園の実態に即した教育活動が推進できるようになってきた。全ての幼稚園・小学校で評価が「目標どおりに達成できた」であり、評価できる取組を進めているが、今ある取組を更に深化・改善をはかり「目標以上に達成できた」という評価が表れるように、充実させていく必要がある。</p>						
当該年度の取組	<p>各校・園で地域や児童の実態に即し、子どもたちに付けたい力を明かにし、創意・工夫に満ちた特色ある活動を行い、学校教育目標の達成と教育ビジョンの実現に向かっていった。</p> <p>【幼稚園】地域・交流：読書活動：体験活動：福祉活動：環境学習：情操教育：職員研修等 【小学校】郷土学習：地域交流：環境学習：体験学習：福祉学習：平和学習：読書活動：国際理解：教員研修：学力向上等 【中学校】地域・郷土学習：地域交流：環境学習：体験学習：人権学習：福祉学習：平和学習：読書活動：国際理解：学力向上：福島第四中学校との交流等</p>						
改善案・方向性	<p>地域の教育資源の活用や個に応じた指導など各学校・園の状況を踏まえた特色ある教育が今後も重要となるため、更なる充実が必要であり、地域との協力体制の強化や、長期的視野に立った計画性、学校のカリキュラム上の関連性をもっと意識した取組をさらに進め、保護者・地域から信頼される学校・園づくりを推進して、松阪市教育ビジョンの実現に向けていく。</p>						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】		番号	2		
事業名	教職員研修事業			↑ 達成度 ↓	重要度 →		
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～平成25年度		A		
					B		★
				C			
予算・決算	平成23年度決算	1,270 千円	平成24年度決算	1,179 千円	平成25年度予算	1,414 千円	
事業目的	子どもたちの確かな学力の定着を図り、園・学校生活での満足度を高めるため、保育士や教職員の自主的な学びを大切にした研修を実施し、実践的指導力の向上を目指す。						
事業内容	保育士及び幼稚園・小中学校の教職員等を対象に、今日的課題やニーズに沿った内容で、日常の保育教育実践や研究、あるいは保育教育実践上の問題解決に役立つ研修の場を提供する。 ・教科・領域指導研修、教育課題別研修、専門研修、教育講演会等						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成23年度より、保・幼・小・中の連携を大事にする視点から、前年度までの幼稚園・小中学校教職員対象の「教職員研修事業」と、保育士及び幼稚園・小学校教職員対象の「乳幼児教育研修事業」を統合し、本事業に一本化して実施している。 平成24年度からは、講座の区分を明確にし、内容の充実を図ることで、よりニーズに合った講座選択ができるよう改善した。						
検討課題	個人の意識や学校事情等により、講座の受講状況に差が見られる。保育士や教職員が自らの専門性を高めるため、自主的・主体的に学び続けることへの意識向上を図れるよう、さらなる取り組みが必要である。						
当該年度の取組	「新学習指導要領における教育内容の改善事項に即したテーマ」「実技や実習、ワークショップ型等のより実践的な研修方法」「地元で特色ある実践を行っている教師を講師に」を重視した研修講座の構築を行い、34講座を実施した。 ・延べ受講者数 2,887人 ・参加者の受講満足度 97%						
改善案・方向性	講座アンケート結果等をもとに、ニーズに応じた魅力ある講座構築に努めるとともに、講座案内チラシやセンターだより、ホームページ等で、掲載内容・方法を工夫した研修参加への啓発を行う。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】		番号	3			
事業名	教育相談事業			↑ 達成度	重要度 →			
					A			★
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～平成25年度		B			
					C			
予算・決算	平成23年度決算	2,389 千円	平成24年度決算	3,035 千円	平成25年度予算	3,407 千円		
事業目的	子どもたちの健やかな成長を願い、心や生活上で悩みを抱えた幼児児童生徒及びその保護者・教職員等関係者への相談を行うことにより、個々の課題解決に向けての歩みを支援する。							
事業内容	必要に応じて関係機関と連携を取りながら、相談者のニーズに応じた相談を実施し、心の安定を図れるよう支援を行う。 ・教育相談(所員による相談)…来所・電話相談、第3土曜相談 ・カウンセラー相談(臨床心理士によるカウンセリング)							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	相談支援をより有効的に進めるため、平成23年度から、「教育相談事業」と平成17年度から開始した専門家による「心のカウンセラー相談員配置事業」の相談事業を統合し、本事業に一本化した。 相談者のニーズを考慮し、「土曜相談(月1日)の実施」「カウンセラー相談の回数増」「夕方相談枠の実施」等、相談体制の充実を図ってきている。							
検討課題	効果的な相談支援を進めていくために、相談申込み時の早期対応や、継続的・定期的な相談が実施できるよう、体制の充実を図っていく必要がある。 子どもたちの抱える心の課題やその背景は、複雑・多様であり、専門的な視点からの見立てや支援を必要とするケースが増加していることから、担当者の力量を高めるとともに、カウンセラーとの連携を密にして、適切な相談支援を進めていく必要がある。							
当該年度の取組	専門家への相談希望が多いことから、カウンセラー相談の回数増、土曜相談の拡大、夕方相談枠の設定等、より相談者のニーズに応じた相談体制づくりを進めるとともに、教育相談担当者とカウンセラーの連携をより密にすることに配慮しながら、支援を進めた。 相談延べ件数 1,449件、相談実人数 196人 ・教育相談 969件(面接相談714件、電話相談255件) ・カウンセラー相談 480件、144回実施							
改善案・方向性	カウンセラー相談の回数増等、より相談者のニーズに応じた相談しやすい体制の充実を図る。 各種研修会や担当者会等への積極的な参加により、教育相談担当者の力量アップを図る。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	4		
事業名	いじめ等対策事業				↑ 達成度	→ 重要度		
						A		
担当課	学校支援課	事業年度	平成21年度～平成25年度		B		★	
予算・決算	平成23年度決算	12,109 千円	平成24年度決算	11,905 千円	C	B	A	
事業目的	<p>児童生徒の悩みやストレス等を早期に発見し、心のケアを行うとともに課題の解消に向けた取組を支援するため、専門性を有する相談員（ハートケア相談員）や学校巡回指導員を派遣する。また、学級満足度尺度調査（Q-U）を実施することにより、児童生徒の状況を把握し、いじめや不登校の未然防止に努めるとともに、指導の充実を図る。</p>							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートケア相談員の中学校区への配置 ・学校巡回指導員の配置 ・学級満足度尺度調査の実施 ・司法福祉相談の実施 ・カウンセリングマインド向上研修（中学校養護教諭対象）の実施 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員を継続的に配置することで、児童生徒や保護者と信頼関係が構築され、悩みに寄り添った支援ができてきている。また、兄弟姉妹関係の情報共有等ができ、小中連携にも寄与している。 ・Q-Uによる児童生徒の客観的なデータから、個々の児童生徒の実態把握や、学級の状態を把握することにより、いじめや不登校を早期に発見するとともに、早期対応に役立てている。 							
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の低年齢化が進んでおり、規範意識の醸成を図っていく必要がある。 ・いじめ問題について、Q-U以外にいじめに特化したアンケートを実施し、早期発見に努めているが、児童生徒どうしが互いに相手を思いやり、いじめを許さない学級づくりを、更に進めていく必要がある。 ・学校や児童生徒、保護者を支援する上で、相談体制の充実を図るとともに、子ども支援研究センターや育ちサポート室、家庭児童支援課、警察等の関係機関と、より密接な連携をとりながら、チーム支援を行っていくことが重要となってきている。 							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートケア相談員7名を6中学校18小学校に配置し（相談件数は児童生徒4,288件、保護者304件、教育関係者1,961件の計6,553件）、教育相談の充実を図っている。また、学校巡回指導員1名が小中学校を巡回支援するとともに、青少年センター等の関係機関との連携を進めながら、生徒指導連絡協議会や相談員研修会でスーパーバイザー的な役割を果たしている。 ・Q-Uは41小中学校（学級数320、児童生徒数9,564人）で実施し、いじめや不登校の未然防止や学級づくりに活用している。 ・カウンセリングマインド向上を図るため、福島大学青木真理教授を講師に招き、事例検討を中心に研修を行っている。 							
改善案・方向性	<p>各校ではQ-U等を活用しながら学級づくりを進め、開発的・予防的生徒指導に取り組んでいるが、子どもたちの中には、コミュニケーションが苦手なため問題行動を起こしたり、不登校になってしまっている現状がある。そのため、教職員や相談員自身のスキルアップを図るとともに、養護教諭等とより連携を密にし、日頃の児童生徒の実態を早期に把握することが必要である。本事業を継続し、より有効な手立てを図っていきたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	5			
事業名	学びのイノベーション事業				↑ 達成度	重要度 →			
						A			★
担当課	学校支援課	事業年度	平成23年度～平成25年度			B			
						C			
予算・決算		平成23年度決算	906 千円	平成24年度決算	1,284 千円	平成25年度予算	1,834 千円		
事業目的	<p>「松阪市教育ビジョン」の一つ「学びの世界が広がる情報教育の発信」の具現化を図る一つの方法として、次の三つを目指すことを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが情報機器を活用して、主体的、積極的、協働的に学習活動に取り組むことを目指す。 ・教員のICT活用能力、指導力を高め、情報機器を活用した授業が展開されることにより、子どもたちの学習意欲の向上、学力の向上を目指す。 ・ICT教育にかかわる実践や研究のために、教育委員会の支援体制が充実することを目指す。 								
事業内容	<p>実証研究校として松阪市立三雲中学校を指定し、フューチャースクール推進事業によって整備されたICT環境を活用して、タブレットPCに導入される生徒用デジタル教科書等を使い授業の形態や学習方法を工夫し、子どもたちの学習意欲及び学力の向上を目指すとともに、その成果や課題点を明らかにし、事業の充実を図る。</p>								
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成23年度はフューチャースクール推進事業における機器の導入、システムの構築が中心で、学びのイノベーション事業においては準備段階の域を出なかったが、平成24年度から実証研究が本格実施され、学校の取組として研修体制も確立されてきた。授業における活用事例も多く示され、この取組に対する視察や聞き取りは県内をはじめ県外から16回を数えるほど全国でも注目される取組となっている。</p>								
検討課題	<p>今後、フューチャースクール推進事業とも連携しながら、松阪市独自の取組を深めていくとともに、その取組をどのように各校へ展開していくのが重要な課題となる。教育の情報化については、国の施策としても2020年を一つの区切りとして取組が示されており、それに向けた具体的な取組を進めていく必要がある。</p>								
当該年度の取組	<p>情報機器を活用して、ノートを大きく写したり、効果的に資料や課題を示したりして、みんなで考え合い、学び合うような学習が行われるようになりつつあり、子どもたちの学習意欲の向上や学習内容の理解が深まるなどの効果が表れてきている。平成24年6月14日には中間発表会が行われ、授業参観の都合で設定した150人の予定人数が早々に埋まる参加であった。教育委員会と学校とが連絡・連携を密にして、新しい情報を伝えたり、現場の意見や状況を把握したりしながら、情報機器の授業での有効活用と学力の向上に向けての取組を進めた。</p>								
改善案・方向性	<p>今後、連携事業である総務省「フューチャースクール推進事業」とも連携しながら、生徒の学習意欲や学力の向上を目指し、実証研究を進めていく。教職員の研修体制を支援し、意欲的な実証研究が行われるようサポートしていく。費用対効果も充分考えながら、全国でも先進的な取組を財産として、教育の活性化にどのように生かしていくかを具体的に考えるとともに、本事業の成果や課題を踏まえ、他の中学校や小学校の情報教育のあり方について、情報教育指針の策定も含め、検討を進めていく。</p>								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号	6		
事業名	特別支援教育推進事業					↑ 達成度	重要度 →		
							A		★
担当課	学校支援課	事業年度	平成15年度～平成25年度						
予算・決算	平成23年度決算	48,210 千円	平成24年度決算	48,297 千円	平成25年度予算	48,622 千円			
事業目的	<p>特別支援教育は、平成19年度より学校教育法に位置づけられ、すべての小中学校・幼稚園において障がいのある幼児・児童・生徒の支援をさらに充実していくこととなった。これらに伴い、小中学校において障がいのある児童・生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上のサポートを行ったりする「学校生活アシスタント」を必要な学校に配置し、障がいのある児童・生徒への支援の充実と、学校運営の円滑化を図る。</p>								
事業内容	<p>特別支援学級や通常の学級に在籍する重度障がいやLD、ADHD、高機能自閉症等の特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践や生活面で人的支援を行う「学校生活アシスタント」を配置し、適切な指導および支援を実施する。</p>								
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>本事業は、新市に合併前から行っている事業であり、順調に目的を達成している。平成15年度に介助員の配置としてスタートし、平成19年度以降は、「学校生活アシスタント」と改名し、事業を展開している。1年間の契約であるが、複数年「学校生活アシスタント」として、子どもたちの支援に当たっているアシスタントが増え、支援の仕方や子どもへの対応、職員との連携の仕方等、支援の質が向上してきている。</p>								
検討課題	<p>特別な支援を必要とする児童・生徒数は、年々増加傾向にあり、子どもの実態や保護者の願い、その子にあった教育活動など多様化してきている。そのために「学校生活アシスタント」の増員は不可欠である。特別な支援を必要とする児童・生徒の教育的ニーズを把握し、一人ひとりに応じた支援体制を確立し、学校生活や学習上の困難を改善していく必要がある。</p>								
当該年度の取組	<p>学校や育ちサポート室と連携を図り、必要とする学校に配置していった。アシスタント対象の研修会を年2回実施し質の向上を図った。4月の研修会では、仕事内容・子ども理解・支援するに当たっての留意点等の講演を行った。その後、グループに分かれて、意見交流をおこない、特別支援学級担任アドバイスをする場を持った。10月の研修会では、現場の職員から、支援する上で大切にすることを中心とした講演会を実施し、その後、より具体的な視点でのグループ討議をおこなった。また、各学校において、学校や子どもの実情にあった研修会や、指示・アドバイスを行うようにし、障がいのある児童・生徒への支援の充実を図っていった。</p>								
改善案・方向性	<p>子どもたちの支援の充実には、人数の確保、支援の質の充実、研修の必要性が大切である。支援の必要な子どもが多様化してきている。医療的な支援や看護師なども必要となってくる。園・学校・家庭・関係機関と綿密な連携を図り、育ちサポート室、通級教室も含め、その子に応じた支援の在り方をさぐり、特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの状態等に応じて、きめ細かな支援体制を確立する。</p>								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	7		
事業名	読書室いきいきプラン事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～平成25年度			B		
					C			
予算・決算	平成23年度決算	17,745 千円	平成24年度決算	15,700 千円	平成25年度予算	15,530 千円		
事業目的	中央教育審議会答申、新学習指導要領に示されているように、言語活動の充実には各教科等を貫く重要な内容である。そのために読書活動の推進は必要不可欠であり、学校読書室の活用や環境の整備を行い、生徒の読書活動の充実を図る。							
事業内容	中学校の読書室に司書教諭を配置し、図書の整備を行うとともに、児童・生徒に対し読書案内や図書の貸し出し、返却業務、学習上の問題解決の支援を行ったり、読書室の閉鎖、読書室のレイアウト等の環境整備を行ったりすることにより、生徒の読書活動の活性化を図る。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成17年度から行っている事業であり、年々読書室への入室者が増えてきている、それに伴い、貸出冊数も増えて、ほぼ順調に目的を達成している。図書館司書と子どもたちがコミュニケーションを図ることにより、図書室が身近な場所となり、子どもたちの読書活動の活性化に繋がっているといえる。							
検討課題	事業内容も概ね整理されている。さらに、子どもたちが調べ学習を図書室で行うなど、学力向上に向けた取組を推進していく必要がある。また、読み聞かせやブック紹介をボランティアでできる人材を地域の中で育成できるよう住民協議会等と連携を図る必要がある。							
当該年度の取組	この事業は、リブネットと委託契約を行い、次のような取組を行っている。 ①カウンター業務 ②資料整備業務 ③学校読書室整備業務 ④読書活動推進業務 ⑤学校読書室での学習サポート業務 ⑥相互貸借のサポート業務 ⑦図書委員会のサポート業務 中学校が中心であるが、9月から市内の8校において月1回司書教諭を派遣し、図書館の整備や、読書活動の活性化を図った。							
改善案・方向性	学力学習調査でも明らかになっているが、学力の向上には読解力の向上が必要不可欠であり、子どもたちの読解力、思考力を養うため、読書量の向上を図ることは極めて重要である。さらに、子どもたちにとって使いやすい読書室・身近な読書室になることを目指して学校図書室の現状や取組を把握し、整備を進めて行く。また、就学前の幼稚園から読み聞かせなどの絵本に触れる機会を多く持ち本に対する興味・関心を高めるとともに、地域や保護者の読み聞かせボランティア等の協力を得るなど、平行して本に触れる活動を積極的に進めていく必要がある。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	8		
事業名	教育支援センター推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～平成25年度	B			★	
				C				
予算・決算	平成23年度決算	2,372 千円	平成24年度決算	2,371 千円	平成25年度予算	2,374 千円		
事業目的	不登校児童生徒が安心して過ごせる居場所を提供し、一人ひとりの状態に応じた指導を行うことにより、学校復帰や社会的自立を支援する。							
事業内容	<p>教育支援センター「鈴の森教室」「うれしの教室」の2教室で、情緒の安定、人間関係づくり、集団適応能力の育成、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等に向けた支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通室指導、体験活動 ・保護者の会、担任会、スクールカウンセラー会議 ・不登校相談、学校訪問、実態調査、事例検討会 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成17年の合併以来、2教室での活動は9年目となる。立地環境を含め異なる雰囲気を持つ各教室の利点を生かした教室運営を行うことにより、多気町、明和町、松阪市地域の不登校児童生徒が、より自分の状態に合った教室を選択でき、安心して過ごせる居場所を求めやすくなった。</p> <p>2つの教室で、相談や通室指導を通して関わった児童生徒の改善率や児童生徒人数については、微増微減を繰り返している。</p>							
検討課題	不登校児童生徒の抱える課題や生活背景は多様化しており、不登校児童生徒の状態や支援の方向性について、保護者、学校、関係諸機関と継続的な連携のもと、個々の児童生徒に応じた支援体制の充実を図る必要がある。							
当該年度の取組	<p>両教室において、通室や相談で関わった児童生徒92人のうち、学校復帰や出席日数の増加で改善が見られた児童生徒は61人であった。(改善率66%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通室児童生徒数 46人、通室延べ人数 3,116人 体験活動(宿泊体験、山登り等) 7回 ・臨床心理士による保護者特別相談 2回 ・保護者の会 3回、担任会 3回、スクールカウンセラー会議 1回 ・相談延べ件数 1,944件(面接1,263件、電話681件)、学校訪問 315回 							
改善案・方向性	<p>「担任会」「保護者の会」の内容充実や参加者の拡大を図り、不登校への理解や対応等について学ぶ機会を充実する。</p> <p>指導員が各種研修会等に積極的に参加し、力量を高めるとともに、効果的な支援の方向性について探っていく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	9		
事業名	育ちサポート推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	育ちサポート室	事業年度	平成22年度～平成25年度			B		
予算・決算	平成23年度決算	15,674 千円	平成24年度決算	16,037 千円	C	B	A	
事業目的	<p>社会が急激に変化する中で、子どもたちが安心して成長できる、また、子どもたちを安心して育てられる環境の整備を目的とする。特に、今日、子どもの発達に関する支援が大きな課題となってきており、子どもたちの育ちを早期から一貫して支援していける、市民にとって利用のしやすい相談支援体制の実現を目指す。</p>							
事業内容	<p>子どもの発達に関する相談の窓口となり、子ども本人や保護者、保育・教育関係者に対して、発達障がいを含む全ての障がいに関する事や子育てや発達に関する事の相談や助言・検査等の支援、障がい児の就学就園の支援を3部局(保健・福祉・教育)連携のもとに行う。また、ネットワーク会議やケース会議など、関係機関との連携をより密にスムーズに行い支援を実施する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成22年8月に育ちサポート室を開設し事業を実施してきた。平成24年度には福祉部内にも3部局の連携の中で家庭支援や福祉サービスを提供していく、家庭児童支援課が設置され、より関連部署との連携方法・業務分担について検討と改善を進めていくことが必要となってきている。</p> <p>早期からの途切れない支援が必要な子どもの様子は多様化しており、一人ひとりのニーズにあった支援が求められている。育ちサポート室では、保育園・幼稚園・小中学校への巡回相談を実施しているがその内容について毎年見直しを続けてきており、園・学校での支援体制の整備に努めている。</p>							
検討課題	<p>新しい組織であり、市民への周知がまだまだ必要である。また、上記のように福祉部内に家庭児童支援課が設置されたこともあり、関連部署との業務分担を明確にし、医療機関も含め、スムーズな連携を行うことが、市民のニーズに応えていくことにつながる。なお、保護者や学校から中学校卒業後の連携について心配する意見も多く、高等学校や中学校卒業後の進路先や福祉施設等との連携が必要である。</p> <p>子ども一人ひとりのニーズにあった支援体制を継続して構築できるように、相談内容の検討、巡回相談の有効活用など、より一層の充実が課題となってきている。</p> <p>業務の性格上、個人情報を取り扱うことが多くその保護と共有・活用については、ケースごとに違いもあり、十分な配慮と慎重さが必要である。</p>							
当該年度の取組	<p>子どもの発達に関する相談窓口、関係機関へのつなぎと連携・コーディネート、発達障がいに関する相談・検査、幼児健康診査及びその関連事業への連携、福祉相談等の福祉事業との連携、障がい児就学支援委員会・障がい児保育支援委員会の事務局、発達に関する個人情報の保管共有などの業務を実施した。</p> <p>昨年度に引き続き、巡回相談のシステムの改善を行い。相談機能が充実するように努めた。特別支援教育アドバイザーを中心に特別支援教育の体制整備の充実に一層取り組んだ。カルテ・相談票の改良、就学支援委員会についての園・校・保護者等への周知方法の改善等を実施した。また、ホームページの改善やパンフレットの増刷・配布先の拡大などにより、育ちサポート室の一層の周知も図った。</p>							
改善案・方向性	<p>近年子どもの状態や子どもを取り巻く環境等が多岐多様となっており、子ども一人ひとりのニーズを把握し、持てる力を高め、生活や学習上の困難さを改善または克服するためには、子どもの観察や情報収集をより充実させ、子ども一人ひとりの理解・子どもを取り巻く環境をできる限り詳しく把握し、支援を行うことが大切である。今後も保健部・福祉部と連携をして、保護者の思いに寄り添いながら早期からの支援につなげていかなければならない。また、保護者や家庭そのものに福祉サービス等の支援が欠かせないケースも多くなってきたり、保健部・福祉部または児童相談所や医療機関等の外部関係機関との連携がますます不可欠となってきている。</p> <p>同時に、ますます増加する相談や検査等の支援ニーズに対しては、相談員の確保や相談枠・訪問時間の検討等を進め、より効率的・効果的支援方法を探っていく必要がある。発達に関する「総合支援室」としての体制は整いつつあるが、今後、保育園、幼稚園、小中学校での有効な支援体制の確立など、事業の内容の充実に取り組んでいく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号	10		
事業名	外国人児童生徒いきいきサポート事業費					↑ 達成度	重要度 →		
							A		★
担当課	人権まなび課	事業年度	平成19年度～平成25年度			B			
予算・決算	平成23年度決算	11,535 千円	平成24年度決算	11,629 千円	平成25年度予算	C	B	A	
事業目的	外国人児童生徒の増加、広域化に伴う、外国人児童生徒の学校への適応支援及び初期の日本語指導等により学校生活での不安を解消するとともに、高等学校への進学や就職など進路指導に関する支援を行う。								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」の運営。 外国人児童生徒の在籍する小中学校へ、巡回による指導補助者(母語スタッフ)の配置。 外国人児童生徒および保護者のための進学及び就職に関する進路ガイダンスの開催。 								
複数年にわたる事業の場合進捗度等	日本語指導を必要とする外国人児童生徒は、増加の一途をたどっており、また、在学する学校の広域化が続いている状況であり、学校への適応支援及び初期の日本語指導のための初期適応支援教室「いっぽ」を中心に、在籍校における外国人児童生徒および保護者への支援はますます必要となっており、継続的に実施していく必要がある。								
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> 母語保障の取り組み 初来日等の外国人児童生徒の増加に伴う、初期適応支援教室「いっぽ」の日本語指導員等のさらなる充実 								
当該年度の取組	<p>市内在住の外国人15名及び日本語指導員6人を雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において、学校生活への適応支援及び日本語学習支援等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期適応支援教室「いっぽ」・・・通級児童生徒数52名 内修了児童生徒数42名 親子にじ教室・・・開催数22回 参加者数141名 小中学校巡回指導補助・・・小学校16校 中学校5校 支援状況1, 137回 4, 185時間 進路ガイダンス・・・開催数1回 参加者数106名 								
改善案・方向性	引き続き、外国人児童生徒の在籍状況に応じた支援体制の充実を図ると共に進路保障につながる教科学習への支援の充実を図る。また、初期適応支援教室「いっぽ」についても、通級希望者数に応じた対応ができるよう検討していく。								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	11		
事業名	外国人児童生徒受入促進事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度～平成25年度		C	B	A	
予算・決算	平成23年度決算	5,443 千円	平成24年度決算	4,703 千円	平成25年度予算	4,730 千円		
事業目的	外国人児童生徒の在籍の多い小中学校をセンター校(久保中学校、第二小学校、第五小学校)、準センター校(殿町中学校、徳和小学校、花岡小学校)に指定し、三重大学、愛知淑徳大学等関係機関の指導、助言、協力を受け、外国人児童生徒の受入体制や日本語指導の充実及びアンデンティティの確立のため、調査研究を行う。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会(事業計画の立案、検討、課題改善策の協議)の開催 ・プロジェクト会議(具体的な取り組みについての計画、検討、改善等を協議)の開催 ・ネットワーク会議(取り組み内容や教材など全市的に共有化)の開催 ・センター校・準センター校等への指導補助者(母語スタッフ)の配置 ・就学前支援教室「ふたば」の開催 ・多文化理解授業の実施 ・フォトストーリーづくりの実施 ・日本語指導法講座 ・高校見学バス研修 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成22年度から県補助事業(補助率2/3)の新規事業として実施。平成24年度も日本語指導の必要な外国人児童生徒の在籍が増加、分散化する中で、小中学校への受入体制の整備、学校における日本語指導の充実のため、課題の発掘、改善を行い、国際教室の設置及び運営の充実、教材等の作成等をセンター校、準センター校において取り組んできた。さらに課題の改善等調査研究を進めるとともに、センター校、準センター校の取り組みの成果を松阪市全体に広めていく。							
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた教科指導能力の向上等 ・アイデンティティ確立のための取り組みの充実 							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会の開催(開催数:2回):事業の立案、発生する課題等の改善策等を協議した。 ・プロジェクト会議の開催(開催数:4回):具体的な取り組みについての計画等を協議した ・ネットワーク会議の開催(開催数:2回):センター校等の取り組みを全市的に情報共有した。 ・担当者会議の開催(開催数:8回):センター校・準センター校担当者が情報交換を行った。 ・小中学校指導補助の実施(648回 2,524時間 小学校10校・中学校2校):母語スタッフ5人により小中学校へ巡回による指導補助を行った。 ・就学前支援教室「ふたば」の開催(開催数:11回、参加幼児数:20人[延べ177人]):次年度 入学予定の幼児対象に小学校で学ぶための日本語学習や生活規律に関する支援や保護者への情報提供を行った。 ・多文化理解授業の実施(開催数1回、徳和小学校・2年生5クラス):三重大学留学生3人により各国の文化・生活について学んだ。 ・フォトストーリーづくりの実施(開催数:1回、参加児童生徒数:10人)愛知淑徳大学の准教授 及び学生の指導のもと、自分の夢や生活に関する写真にナレーションをつける手法で映像にまとめ、自分を発見し、表現することで、アイデンティティの確立への取り組みを行った。 ・日本語指導法講座(開催日:8月22日・23日、参加者数のべ46人)小中学校教職員・初期適応支援教室「いっば」のボランティアを対象に、三重大学准教授による「みえこさんのにほんご」の指導法を学んだ。 ・高校見学バス研修(開催日:10月28日、見学場所:県内3高等学校、参加者:児童生徒28人・保護者3人・通訳等11人) 							
改善案・方向性	さらにセンター校、準センター校で初期の日本語指導等の実践研究を進めるとともに、教科指導の充実を進める。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	12		
事業名	学校給食単独調理場備品等整備事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	給食管理課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	7,453 千円	平成24年度決算	5,648 千円	平成25年度予算	8,888 千円		
事業目的	学校給食単独調理場における作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。							
事業内容	衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 ＜対象となる調理場＞ 本庁管内24小学校（単独調理場）							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	各調理場において、備品・設備の老朽化及び、衛生管理基準の見直し等もあり、安全・安心な給食の運営には、基準に見合った備品等を整備することが必要であるが、年次計画で整備しなければならない。							
当該年度の取組	各単独調理場において衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 ＜主な購入物品＞ ・自動食器洗浄機（松江小）、電気式消毒保管庫（幸小）の設置 ・自動手洗消毒器（幸小、伊勢寺小、松ヶ崎小）ほか							
改善案・方向性	「安全・安心でおいしい給食」を安定的に提供するため、備品等の整備は必要不可欠であるが、近年、老朽化に伴う修繕費も増加傾向となっている。年々、求められる衛生管理水準も高まっているとともに、作業能率向上等の目的においても重要な事業であり、適正な優先順位を考慮した厨房備品の整備をしなければならない。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	13		
事業名	学校給食センター備品等整備事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	給食管理課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	3,843 千円	平成24年度決算	7,479 千円	平成25年度予算	4,714 千円		
事業目的	学校給食センターにおける作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。							
事業内容	<p>衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。</p> <p><対象となる学校給食センター> 学校給食センターベルランチ 嬉野学校給食センター 三雲学校給食センター 飯南学校給食センター 飯高等学校給食センター(宮前・森調理場)</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	各給食センターにおいて、備品・設備の老朽化及び、衛生管理基準の見直し等もあり、安全・安心な給食の運営には、基準に見合った備品等を整備することが必要であるが、年次計画で整備しなければならない。							
当該年度の取組	各学校給食センターにおいて衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 <主な購入物品> ・給食運搬車(嬉野) ・牛乳保冷库(豊地小)ほか ※給食運搬車購入代4,515千円の内、4,000千円は三重県合併支援交付金として交付							
改善案・方向性	「安全・安心でおいしい給食」を安定的に提供するため、備品等の整備は必要不可欠であるが、近年、老朽化に伴う修繕費も増加傾向となっている。年々、求められる衛生管理水準も高まっているとともに、作業能率向上等の目的においても重要な事業であり、適正な優先順位を考慮した厨房備品の整備をしなければならない。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	14		
事業名	学校給食推進委員会事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	給食管理課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	0 千円	平成24年度決算	298 千円	平成25年度予算	98 千円		
事業目的	学校給食の推進に関する協議							
事業内容	学校給食推進委員会の開催							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>学習指導要領の改訂(平成20年3月28日)及び改正学校給食法(平成21年4月1日施行)において「学校における食育の推進」が明記され、教育活動における重要性が増すとともに、保護者の給食への関心も高まっており、内容の充実が求められている。</p>							
当該年度の取組	<p>諮問事項『安全・安心な給食の安定供給及び食育の維持向上を目指した学校給食施設整備のあり方について』 近年の施設の老朽化や厳しい財政状況の中で、現在の地域性や食教育の維持を勘案しながらも、効率性・経済性等将来を見通した施設整備や運営のあり方についての早急な検討が必要である。松阪市全体を見据えた安全・安心な給食の実施、食育の維持向上を目指した学校給食施設整備のあり方について審議した。年間8回開催(内1回荒天による中止) 答申日 平成25年3月28日</p>							
改善案・方向性	<p>地産地消の推進や食事内容の充実、物価変動に伴う給食費の適正化への対応が可能となり、安全・安心で食育の生きた教材となる給食を安定的に提供できるシステム作りに繋げていく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	15		
事業名	こどもまつり大会事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	1,484 千円	平成24年度決算	1,451 千円	平成25年度予算	1,953 千円		
事業目的	子ども達に遊びやもの作り等創作を通じていろいろな体験をしてもらい、家族や友達と一日楽しく過ごすことができるイベントを提供し、郷土の将来を担う子どもたちの育成を図る。							
事業内容	<p>創作や遊びを通じて、子どもたちが家族や友達と一日楽しく過ごすことができる催し物を提供する。</p> <p>今年度は雨にも関わらず沢山の参加者がありました。</p> <p>(中部台運動公園芝生広場(雨天時:総合体育館)において、ステージのほか会場内を「あそぶ」・「つくる」・「たべる」のコーナーに分け、ステージでは子どもたちの楽器演奏やダンスパフォーマンス、各ブースでは各種工作やミニサッカー等のゲーム、白バイ乗車や消防服の試着等、実行委員である各関係機関・団体の運営により、子どもたちの楽しめるまつり開催に取り組んでいる。)</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>松阪こどもまつりは35回を迎え、市民に定着しており、事業費削減の中でも、実行委員の努力により多数の方に来場していただいておりますが、その反面、駐車場の許容能力に限界が近づいており対応を検討していく必要がある。また、会場である中部台運動公園が毎年この時期に芝生の張替え養生期間となり、一部使用できない箇所があり、会場レイアウトで苦心している。</p>							
当該年度の取組	<p>○実行委員会:5回開催</p> <p>○日 時:平成24年4月22日(日) 午前10時から午後3時まで</p> <p>○場 所:松阪総合体育館(現さんぎんアリーナ)</p> <p>○参加者:3,000人</p> <p>○内 容:ステージ、あそぶ・たべる・つくる各コーナーの開設</p>							
改善案・方向性	<p>中部台運動公園は、松阪市内で最も大きい芝生公園で、駐車場も確保しやすい環境にある。会場及び駐車場を収容的に見て市内にこれ以上大きな会場は見当たらず、参加者数も会場に見合った来場があるため、継続使用していきたい。</p> <p>また、子どもたちの安全確保について、まつり開催における重要な課題であり、実行委員会内において今後とも協議を進めていきたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	16		
事業名	青少年健全育成事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	6,098 千円	平成24年度決算	6,248 千円	平成25年度予算	6,314 千円		
事業目的	<p>松阪の将来を担う青少年の健全育成を図るため、次代の担い手である青少年が心身ともに健全に育つ環境づくりをめざし、健全育成活動の推進と環境整備を行う。 また、各地域の関係各団体と連携し青少年の健全育成活動の充実と活性化を図る。</p>							
事業内容	<p>各地区健全育成会・学校・関係団体などで構成された「松阪市青少年育成市民会議」を中心に、行政と一体となって青少年育成講演会や、パトロール、市内幼稚園児保育園児を対象とした親子ふれあいのつどい等各種講座、環境浄化活動、青少年健全育成に係る街頭啓発等を実施する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>青少年健全育成の事業は、行政の一方向的な指導・推進では限界があり、家庭・地域・行政の連携が重要である。 これを実践するためには、各地域に青少年健全育成の事業を推進・指導する意欲と能力を持った「指導者」の養成が必須となる。</p>							
当該年度の取組	<p>○青少年育成のつどい講演会の開催 平成24年12月12日 松阪コミュニティ文化センター ○家庭教育講演会・子ども体験教室等の開催 ○市内22育成会にそれぞれの地域にあった健全育成活動を業務委託 ○松阪市青少年育成市民会議の活動を通じて健全育成事業及び「あいさつ運動」標語募集作品の選考を実施した。</p>							
改善案・方向性	<p>青少年健全育成の事業については、社会全体で取り組む必要があると認められる。特に地域での取り組みがポイントと考えられる。そのための指導者養成や各地域の自主性・自律性を高めることが具体的方策となる。 また、子どもの健全育成のために今後も事業を推進していくが、関係団体等の理解を得て、さらに一層の事業精査、事務改善を図っていく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	17	
事業名	新成人のつどい開催事業				↑ 達成度 ↓	重要度 →	
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成24年度			A	★
予算・決算	平成23年度決算	327 千円	平成24年度決算	456 千円		B	
						C	A
事業目的	<p>新成人の代表である実行委員が自主的に人生の節目である成人式を企画、運営することにより実行委員の思いのこもった「新成人のつどい」を開催し、新成人を祝福するとともに大人としての自覚を促す。</p>						
事業内容	<p>前半は市長祝辞、新成人謝辞及び後半は、新成人による実行委員会の企画によるアトラクションの構成で開催し、新成人による実行委員会が企画運営する。 (新成人を中心としたメンバーが実行委員会を組織し、企画や運営、PRポスター作成などに、9月下旬から取り組む)</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>新成人による実行委員の募集が毎年少なく、実行委員会の設置に苦心している。また実行委員会組織後においては、価値観の多様化もあり、実行委員が数多く話し合える場を設けることが重要である。しかし、実行委員のほとんどが学生である現状で、実行委員会議出席への時間的制約と実行委員会開催会場の選定など場所的制約が継続的な課題となっている。</p>						
当該年度の取組	<p>実行委員会：6回開催 日 時：平成25年1月13日(日)午前10時～午前11時30分 場 所：松阪市民文化会館(現クラギ文化ホール) 対 象：平成4年4月2日～平成5年4月1日までに生まれた方 参加人数：1,318人(住民登録者数 1,601人) 住民登録者数に対して 82.32%</p>						
改善案・方向性	<p>新成人である実行委員にとって新成人のつどい(成人式)を成功させることは大きな自信となり、また社会に目を向けることができる。今後もこのような青少年を対象とした事業を活かし、青少年の人材育成に取り組んでいくことが大切である。 新成人OBや学校との連携等を強化することで、実行委員会の組織強化のために支援していきたい。</p>						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	18																														
事業名	図書館管理運営事業				↑ 達成度 ↓	重要度 →																														
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成21年度～平成25年度	A		★																														
				B																																
				C																																
予算・決算	平成23年度決算	131,819 千円	平成24年度決算	123,169 千円	平成25年度予算	123,004 千円																														
事業目的	図書館施設(松阪図書館・嬉野図書館)を適法・適正に管理し、施設利用者へのサービスの向上を図る。																																			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度の導入、図書館コンピューターの利用により、図書館業務の効率化と迅速化を推進する。 ・高度情報化社会の多様なニーズに対応するため、蔵書等の充実を図る。 ・松阪市子ども読書活動推進計画により、ブックスタート事業やボランティアの協力を得て、「絵本の読み聞かせ」等を開催し、子どものための読書活動を推進する。 																																			
複数年にわたる事業の場合進捗度等	指定管理者制度の導入による、(株)図書館流通センター(TRC)の管理業務委託は4年目を迎え、図書館業務の効率化と蔵書の充実等が図られるとともに、住民ニーズに応えるサービスの向上(満足度)に関して順調に達成しつつある。																																			
検討課題	松阪図書館の経年劣化による施設の維持管理経費																																			
当該年度の取組	<p>○平成24年度 各図書館(室)における利用状況等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出冊数(冊)</th> <th>利用者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>553,912</td> <td>122,928</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>252,659</td> <td>56,272</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>14,769</td> <td>4,247</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>821,340</td> <td>183,447</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平成24年度各図書館(室)における蔵書冊数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>24年度末(冊)</th> <th>増冊数(冊)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>239,764</td> <td>9,305</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>114,046</td> <td>5,325</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>21,963</td> <td>1,490</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>375,773</td> <td>16,111</td> </tr> </tbody> </table>							貸出冊数(冊)	利用者数(人)	松阪図書館	553,912	122,928	嬉野図書館	252,659	56,272	三雲図書室	14,769	4,247	計	821,340	183,447		24年度末(冊)	増冊数(冊)	松阪図書館	239,764	9,305	嬉野図書館	114,046	5,325	三雲図書室	21,963	1,490	計	375,773	16,111
	貸出冊数(冊)	利用者数(人)																																		
松阪図書館	553,912	122,928																																		
嬉野図書館	252,659	56,272																																		
三雲図書室	14,769	4,247																																		
計	821,340	183,447																																		
	24年度末(冊)	増冊数(冊)																																		
松阪図書館	239,764	9,305																																		
嬉野図書館	114,046	5,325																																		
三雲図書室	21,963	1,490																																		
計	375,773	16,111																																		
改善案・方向性	司書のスキル習得により、利用者の幅広い要求に対応していくとともに、子どもをはじめとした市民の読書活動を推進していく。また、学校図書室との連携を図っていく。施設の修繕については、担当課とTRCと協議を行い、対応していく。																																			

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	19		
事業名	生涯学習振興事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	13,902 千円	平成24年度決算	13,388 千円	平成25年度予算	14,727 千円		
事業目的	住民の教養の向上、健康の増進等を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、定期講座の開設や講習会、講演会等を開催し、これらの公民館事業を通じて豊かな学習機会の提供を行なう。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・45公民館で、地域課題や住民ニーズに呼応した高齢者学級や女性学級等の連続講座や各種体験教室、伝承文化事業等を開催する。 ・公民館事業たよりを毎月全戸配布するとともに、全地区公民館へ対しても他館のたよりを配布し、市民への周知と、公民館相互の情報共有を図る。 ・市ホームページに「公民館趣味サークル概要」を掲載し、市民への周知を図る。 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	・公民館が担う人材育成や学習の成果を地域に生かすべく、住民協議会との連携を深める必要がある。							
当該年度の取組	<p>公民館において、住民ニーズ等に応じた学習機会を提供するとともに、多様な教育環境の中で地域社会に参画できる人材の育成を目指して、各管内で講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習振興事業(松阪)26館・講座数 295講座 ・開催日数 598日 ・受講者延数 18,193名 ●生涯学習振興事業(嬉野)7館 ・講座数 148講座 ・開催日数 553日 ・受講者延数 6,686名 ●生涯学習振興事業(三雲)5館 ・講座数 145講座 ・開催日数 497日 ・受講者延数 6,152名 ●生涯学習振興事業(飯南)1館 ・講座数 13講座 ・開催日数 147日 ・受講者延数 1,496名 ●生涯学習振興事業(飯高)6館 ・講座数 66講座 ・開催日数 265日 ・受講者延数 2,964名 							
改善案・方向性	地域や時代の要請に応じた生涯学習を推進し、その成果を住民協議会の運営や地域づくりに繋げていく。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	20		
事業名	人権学習推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	人権まなび課	事業年度	平成19年度～平成25年度	B			★	
				C				
予算・決算	平成23年度決算	9,114 千円	平成24年度決算	8,568 千円	平成25年度予算	7,594 千円		
事業目的	さまざまな人権問題に関する学習機会を提供し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図る。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を考える市民講座等人権講座の開催 ・中学校区市民講演会等人権講演会の開催 ・にほんご教室の開催 ・人権学習をコーディネートする非常勤職員の配置 等 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	さまざまな機会を利用しながら、さまざまな人権課題について学習機会を提供することで、人権意識の高揚を図ってきたが、社会の背景の変化とともに生起する人権問題(放射能汚染に伴う人権問題等)への対応や地域の課題に即した人権学習の機会提供を継続して実施していく。							
検討課題	市民一人ひとりの人権意識が、態度や行動に結びつく効果的な教育・学習活動の充実							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講座の開催(開催数:42回、参加者数:1, 532名) ・人権講演会の開催(開催数:20回、参加者数:2, 778名) ・にほんご教室の実施(開催数26回、参加者数:130名) ・人権啓発冊子(講演記録のまとめ)の発行 3, 000部 							
改善案・方向性	社会的な背景の変化等を見極めながら状況に応じた人権課題についての講演会等の実施により住民が主体となって人権教育を推進していけるよう支援していく。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	21	
事業名	歴史的建造物公開事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	文化課	事業年度	平成24年度	A		★	
予算・決算	平成23年度決算	3,017 千円	平成24年度決算	3,774 千円		平成25年度予算	22,172 千円
事業目的	殿町の重要文化財「御城番屋敷」、市文化財「原田二郎旧宅」、市史跡「旧長谷川邸」など、歴史的に貴重で意義のある建造物を一般公開することで、市民や市外からの来訪者に歴史的遺産の保全や活用をアピールする。						
事業内容	御城番屋敷と原田二郎旧宅の公開、平成25年4月に寄贈された旧長谷川邸の保存、建物及び庭園等の維持管理を行う。また、市内に所在する歴史的建造物及び史跡の特別公開を行なうことにより、文化財保護を市民に周知するなど、保存活用に関する普及啓発活動を行なう。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	古い建造物ゆえに、修理する際の様々な法的手続き、必要となる経費負担など、その維持管理には様々な課題がある。 所有者の理解と協力を得ながら、歴史的な視点から「まちの魅力」発信、文化財保護活動の意義について広く理解を得るため、市民目線に立ったわかりやすい手法で啓発活動をしていく必要がある。						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 御城番屋敷公開(平成2年度から実施)に係る見学者数 平成22年度 28,454名 平成23年度 30,268名 平成24年度 32,925名 原田二郎旧宅公開(平成24年10月から実施)に係る見学者数 平成24年度 5,829名 						
改善案・方向性	歴史的建造物公開事業は今後も継続し、参観者増加に向けた効果的な公開、展示方法を検討する。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	22	
事業名	文化財保存整備事業補助金				↑ 達成度 ↓	重要度 →	
担当課	文化課	事業年度	平成24年度	A		★	
予算・決算	平成23年度決算	4,314 千円	平成24年度決算	771 千円		平成25年度予算	875 千円
事業目的	国・県・市指定の文化財の適正な保存管理と活用を図るため、市内に所在する指定文化財の修理に対して、補助金を交付することにより、本市の歴史・文化または自然を理解し、地域の特性を考えるために欠くことのできない大切な文化財を後世に繋げていく。						
事業内容	貴重な文化財を末永く保存するため、指定文化財の管理または修理に要する費用について、所有者または管理団体に対して補助金を交付する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	修理する際の様々な手続き、必要となる経費負担など、その維持管理には様々な課題がある。そのような状況下で、文化財を守っていただいている所有者の負担を少しでも軽くできるよう、市民の理解と協力を得ながら、歴史的な視点から「まちの魅力」発信、文化財保護活動の意義について広く理解を得られるよう、市民目線に立ったわかりやすい手立てを講じていく必要がある。						
当該年度の取組	重要文化財 来迎寺本堂の防災設備修理にかかる費用に対し補助金を交付。 補助金額 771,000円(全体工事費 3,902,000円)						
改善案・方向性	今後も、市、県、国指定文化財の修理について、文化財保護の観点から、規定の補助金を交付する。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	23
事業名	原田二郎旧宅保存整備活用事業				↑ 達成度 ↓	重要度 →
担当課	文化課	事業年度	平成22度～平成24年度	A		★
				B		
				C		
予算・決算	平成23年度決算	29,922 千円	平成24年度決算	13,217 千円	平成25年度予算	1,899 千円
事業目的	<p>殿町の武家屋敷の景観保全地域において、財団法人原田積善会から江戸時代末の武家屋敷の建物(原田二郎旧宅)と敷地の寄贈を受けたため、武家屋敷の復元を主とし、原田二郎を顕彰する施設として整備し、公開・活用を図る。</p>					
事業内容	<p>市指定文化財である武家屋敷(原田二郎旧宅)の修復及び庭園整備などの工事を行ない、松坂出身の篤志家 原田二郎を顕彰する施設として整備し、公開する。</p>					
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>当初予定していた事業は完了し、平成24年10月より一般公開を開始。平成25年度は、便益施設として庭園内に東屋を設置する予定。</p>					
検討課題	<p>古い建造物ゆえに、修理する際の様々な手続き、必要となる経費負担など、その維持管理には様々な課題がある。 新しい公開施設ゆえ、観光案内図等に表示がない場合も見受けられるため、関係部局とも協議し印刷物増刷、看板更新等の際に関連情報を追加する必要がある。 市民の理解と協力を得ながら、歴史的な視点から「まちの魅力」発信、文化財保護活動の意義について広く理解を得るため、市民目線に立ったわかりやすい手立てを講じていく必要がある。</p>					
当該年度の取組	<p>庭園の整備事業を行った。</p>					
改善案・方向性	<p>原田二郎旧宅の公開により、史跡松坂城跡、重要文化財御城番屋敷に次ぐ見学スポットが誕生した。殿町地区の文化財めぐりに新たな拠点が加わったことで、見学者の新たな流れができ、相乗効果として御城番屋敷の入館者数の増加にも繋がった。 今後、この流れを止めないような公開にかかる更なる工夫をしていく必要がある。</p>					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	24	
事業名	長谷川家文書調査事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	文化課	事業年度	平成20年度～平成24年度	A			
				B			★
				C			
予算・決算	平成23年度決算	3,016 千円	平成24年度決算	5,092 千円	平成25年度予算	4,240 千円	
事業目的	<p>「江戸店持ち伊勢商人」長谷川家が、江戸時代から現在まで保存してきた商業関係資料は、近世から現代に至るまで続く商家における経済活動を研究する上で、非常に重要な資料である。これを調査し、目録化するすることで今後の「江戸店持ち伊勢商人」とおした近世期における商業研究の基礎資料とする。</p>						
事業内容	<p>5年間で文書約23,000点、書籍約2,400点の調査を行い、その成果として、平成24年度末に「長谷川家文書調査報告書」を刊行した。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>当初予定していた事業は完了。 当該事業中に新たに確認された文書、書籍、民具類の追加調査を、平成25年度から29年度の5年間で実施する。</p>						
検討課題	<p>対象となる資料の数が膨大な量であり、限られた時間で事業を完了するためには、効率的に調査を進める必要がある。</p>						
当該年度の取組	<p>文書を中心とした調査を継続して実施した。</p>						
改善案・方向性	<p>新たに約30,000点の文書資料が確認されており、調査に要する手間が今まで以上にかかることが予想される。入力に当たってパソコンを導入する、非常勤職員の雇用により作業効率を上げるなど調査方法の改善を行なう。</p>						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	25		
事業名	はにわ館開館10周年記念事業				↑ 達成度	→ 重要度 →		
						A		
担当課	文化課	事業年度	平成23年度～平成24年度		B	★		
予算・決算	平成23年度決算	1,198 千円	平成24年度決算	2,477 千円	C	B	A	
事業目的	<p>松阪市民共有の宝である重要文化財船形埴輪を含む宝塚1号墳出土品を、今後、国宝指定も視野に入れ保存・活用を図っていく上で、市民サイドの合意形成は不可欠である。平成25年3月20日、松阪市文化財センターはにわ館が開館10周年を迎えるにあたり、特別展等をはじめとする各種周年記念行事を実施し、松阪市民における「はにわ館」支援の更なる拡大を図る。</p>							
事業内容	<p>特別展「氏郷の遺したもの」(平成23年10月9日～12月4日) 10周年記念特別展「ねむれる王たちの至宝」(平成24年10月6日～11月25日)関連行事 オープンセレモニー リレー講演会、ワークショップ 10周年記念式典、記念講演会(奈良文化財研究所 石橋茂登氏)、記念コンサート(ハーブ奏者 荒木まどか氏)、記念ワークショップ(平成25年3月20日)</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成24年度中に「はにわ館」が10周年を迎えることを記念し、松坂城と蒲生氏郷に関する特別展を開催した。特別展「氏郷の遺したもの」(平成23年10月9日～12月4日) 展示を通じ、国史跡に指定された松坂城跡の歴史や地域の歴史文化を知る機会を提供した。 来館者数1,510名</p>							
検討課題	<p>特別展「氏郷の遺したもの」来館者数1,510名、 10周年記念特別展「ねむれる王たちの至宝」来館者数2,345名(日平均50名、県内外3.2割)であった。また、10周年記念関連行事への参加者総数は530名であった。とりわけワークショップにおける勾玉・ネックレスづくりやスタンプラリー等は、順番待ちの子供たちの行列ができるほどであった。この賑わいを一過性のものとせず、次世代教育の観点からも、はにわ館・市民ギャラリーを有機的に活用した、新たな出会い・発見・感動の場づくりを文化財センターとして今後とも推進していく必要がある。</p>							
当該年度の取組	<p>特別展「氏郷の遺したもの」(平成23年10月9日～12月4日) 10周年記念特別展「ねむれる王たちの至宝」(平成24年10月6日～11月25日)関連行事 オープンセレモニー リレー講演会、ワークショップ 10周年記念式典、記念講演会(奈良文化財研究所 石橋茂登氏)、記念コンサート(ハーブ奏者 荒木まどか氏)、記念ワークショップ(平成25年3月20日)</p>							
改善案・方向性	<p>文化財センターにおけるはにわ館、市民ギャラリー相互の配置関係が影響し、来館者目線で考えた場合、「はにわ館」への導線確保にかかる課題は従来から指摘されていたものの、今回の一連の記念行事におけるワークショップ、各種イベント等への児童生徒を含む参加者の満足度を勘案したとき、今後は「はにわ館」・市民ギャラリーを有機的に連携させた新たな出会い・発見・感動の場づくりを文化財センターとして推進していく。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	26
事業名	松浦武四郎誕生地活用検討事業				↑ 達成度	重要度 →
担当課	文化課	事業年度	平成19年度～平成24年度	A		★
				B		
				C		
予算・決算	平成23年度決算	5,222 千円	平成24年度決算	864 千円	平成25年度予算	26,968 千円
事業目的	市史跡「松浦武四郎誕生地」(昭和37年三雲村指定)について、市文化財保護条例 第三条に基づき、史跡の保存および公開・活用を図るため、史跡地を購入し、史跡の重要な構成要素である建物のうち、幕末から明治維新に建てられた主屋・離れを中心に、土蔵や納屋を改修し、その保存を図るとともに、公開・活用に努める。					
事業内容	史跡指定地を購入し、史跡の重要な構成要素である建物について、主屋、離れを中心に、土蔵や納屋を改修し、その保存を図るとともに、公開・活用に努める。					
複数年にわたる事業の場合進捗度等	史跡の保存および活用をはかるための整備計画を作成するにあたり、地域の人びとや文化財建造物に関する専門家の意見を広く求めるべく、平成19年度に文化財の専門家や地元自治会長らによる松浦武四郎誕生地整備検討委員会(委員7名)を発足させ、これまでに活用や保存整備の内容について検討している。					
検討課題	史跡の保存・活用にあたっては、地域住民の理解と連携のもとに適切に管理し、文化財として貴重な建物の価値を損なうことがないように進めていくことが必要である。 一方、市民や子どもたちからの意見の中には、地域の人びとが集い、交流できる場としても、史跡を活用していくことを求める声もあり、保存と活用のバランスをうまく取ることが課題となっている。					
当該年度の取組	松浦武四郎誕生地の活用について市民の意見を聞くシンポジウムを開催したほか、史跡の保存整備・活用を検討する委員会の開催、および史跡の維持・管理を行った。 ※史跡の活用を考えるシンポジウムの開催(2回) 第1弾 史跡松浦武四郎誕生地の活用と整備を考える 7月 8日 参加者180名 第2弾 史跡松浦武四郎誕生地の活用に向けた意見交換会 9月16日 参加者173名					
改善案・方向性	史跡の整備・活用について、市民や地域の代表を交えて話し合うことで、史跡を地域で守ろうとする機運も高まってきており、平成20年度には、地域住民を中心に松浦武四郎誕生地保存会が結成されている。 保存会には、これまでに史跡の維持管理に協力をしていただいております。今後も地域の宝として史跡を守っていただければ幸いです。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	27		
事業名	市美術展覧会開催事業費				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	文化課	事業年度	平成24年度			B		★
						C		
予算・決算	平成23年度決算	2,143 千円	平成24年度決算	2,212 千円	平成25年度予算	2,514 千円		
事業目的	松阪地域の美術文化の祭典として、市民の美術創作意欲を高めるとともに、美術鑑賞の機会を提供することで、美術に対する理解を深め、松阪地域の美術水準の向上を図る。							
事業内容	松阪市で唯一の公的な美術展覧会として、「絵画」「彫刻・工芸」「写真」「書道」の4部門、会期2部制で開催する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	市民公募の運営委員会を中心に、専門家や芸術家の意見を取り入れ、運営のあり方などを検討するとともに、若年層の出品数を増やしていく必要がある。							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会の開催 ○審査委員の決定 ○開催要項、ポスターの作成及び配布 ○作品募集 ○高校生以下の出品料無料化 ○審査 ○審査結果の発表 ○展覧会の開催 ○入賞者の表彰 							
改善案・方向性	出品作品の多様化に対応できる部門や次世代の人材発掘ができるような運営のあり方を運営委員会で検討した結果、平成21年度からは従来の6部門を「絵画」「彫刻・立体」「写真」「書道」の4部門に変更し、平成22年度は「彫刻・立体」を「彫刻・工芸」に名称変更するなど、出品しやすい環境づくりに努めている。また若年層からの出品が少なく、出品年齢が高齢化している点について、高校生以下の出品料無料化を引き続き継続するとともに、次代の松阪市を担う新たな才能の育成や芸術教育の振興に寄与できるよう各高校へ働きかけをしていく。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	28		
事業名	文化芸術団体共催事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	文化課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	0 千円	平成24年度決算	666 千円	平成25年度予算	130 千円		
事業目的	文化芸術団体のネットワーク組織である「松阪市文化芸術団体連絡協議会」の各ジャンルの取組を、同協議会を通じて共催事業という形で支援し、文化振興を図っていく。							
事業内容	文化センターでの公演並びに文化財センターギャラリーでの展示会等を実施し、より多くの市民に芸術文化の鑑賞及び体験の機会を提供することにより、芸術文化に対する関心を深める。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	今後、松阪市文化芸術団体連絡協議会と行政との協働で、文化芸術振興の新たな展開を図る必要がある。							
当該年度の取組	「松阪市民ギター音楽祭」、「松阪民謡民舞まつり」、「劇団ミュージカルBe-One公演」、「邦楽演奏会」、「松阪美術協会展」、「松阪写真交流会フォトフェスティバル」の6事業を共催事業として実施した。							
改善案・方向性	これまで一緒に活動していなかった他のジャンルの団体相互で交流を深め、団体同士がコラボレーションするような企画を行っていくことも、協議会を活性化させるために必要である。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	29		
事業名	全国大会等出場派遣支援事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	6,586 千円	平成24年度決算	3,899 千円	平成25年度予算	5,550 千円		
事業目的	<p>市民のスポーツに対する関心を深め、日頃のスポーツ活動の成果として全国大会などに出場する市民等に激励金を支給することにより本市のスポーツの振興を図る。また、全国大会等の大会などで入賞した選手を表彰し、そのことが選手たちの目標や励みにもなり、本市のスポーツ振興に寄与する。</p>							
事業内容	<p>○激励金の交付 予選を勝ち抜いて全国大会に出場する選手等に対し、1人につき10,000円の激励金を交付する。（国際大会は50,000円、オリンピックは100,000円） ○スポーツ賞の授与 全国大会3位以内入賞した選手、または国際大会出場した選手の中から松阪市スポーツ賞選考委員会において選考を行いスポーツ賞を授与する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>この事業は、近隣市町にも同じ制度があるが金額、対象者等制度の違いがあり統一はされていない。今後も県内の制度を調査し事業の内容を協議していきたい。</p>							
当該年度の取組	<p>平成24年度実績 ○激励金の交付 17団体160人、個人85人 計245人 ○スポーツ賞の授与 団体 スポーツ賞 2、スポーツホープ賞 1 個人 スポーツ賞 19、スポーツホープ賞 8 スポーツ賞、スポーツホープ賞の中からスポーツ大賞1名を選考し表彰した。</p>							
改善案・方向性	<p>スポーツ賞においては、従前の勲功章を平成23年度に名称や交付対象者などの制度の協議を行い24年度から改正した。今後も制度の効率的な運用を図りながら、市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図って行きたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	30		
事業名	スポーツ大会等運営事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成24年度			B		★
						C		
予算・決算	平成23年度決算	1,969 千円	平成24年度決算	1,483 千円	平成25年度予算	1,459 千円		
事業目的	生涯を通じて健康で充実した生活を営むことができるよう、市民により多くのスポーツを楽しめる機会を提供し、健康で豊かな生活を送ることを目的とする。また、合わせて地域の特色あるスポーツ事業を実施し、地域住民のスポーツに参加する機会を増やす。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各種市長杯争奪大会(春季・秋季家庭婦人バレーボール大会、ソフトバレーボール大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会)、児童水泳記録会などを体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会に委託し、多くの市民にスポーツの参加機会を提供する。 ・各振興局管内は、地区体育振興会がスポーツ推進委員等と協力して、地域内における「健康づくりのためのスポーツ」事業やスポーツを通じたコミュニティづくりなど、それぞれ特色のあるスポーツ活動を展開する。 							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	各大会に一人でも多くの市民が気軽に参加できるように、大会運営方法や競技種目を検討する必要がある。							
当該年度の取組	<p>○市長杯関係大会 家庭婦人バレーボール大会の開催・・・405人参加、ソフトバレーボール大会の開催・・・359人参加、グラウンドゴルフ大会の開催・・・246人参加申込 雨天中止、卓球大会の開催・・・中学生の部270人、一般・小学生の部ダブルス54組・個人117人参加</p> <p>○児童水泳記録会の開催・・・143人参加</p> <p>○振興局管内開催分 嬉野管内 ふれあいフェスティバル、なめり湖健康ウォーキング 三雲管内 松阪市シャフルボード大会inみくも、松阪市カローリング大会inみくも 飯南管内 ジョギング大会IN茶倉、市民駅伝飯南大会 飯高管内 ビーチボールバレー大会</p>							
改善案・方向性	平成24年度から受益者負担による大会運営方法などの見直しを行った。また、市内各所で誰でもが参加できるスポーツ大会を行い市民が参加しやすい大会を開催していきたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	31		
事業名	シティマラソン大会事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成24年度		B		★	
					C			
予算・決算	平成23年度決算	3,500 千円	平成24年度決算	3,500 千円	平成25年度予算	3,500 千円		
						C	B	A
事業目的	<p>シティマラソンは、参加者の自己表現と健康増進を図るとともに大規模なスポーツイベントとして開催することにより、スポーツに対する意欲、関心を高めるとともに地域の活性化を図る。</p>							
事業内容	<p>市内外からの参加者が感動と満足感、達成感を感じられる大会を目指して、松阪地区陸上競技協会を中心とした実行委員会を組織して実施する。 種目【10kmの部、5kmの部、3kmの部、ペアジョギングの部、ウォーキングの部】 主催 松阪シティマラソン大会実行委員会、松阪市、松阪市教育委員会 大会コース 中部台運動公園 周辺道路(ランニングの部) 鈴の森公園⇒中部台運動公園(ウォークの部) メイン会場 中部台運動公園市民芝生広場(ランニングの部) 鈴の森公園(ウォークの部) 申込方法 郵便局窓口での申し込み インターネットでの申し込み</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>第8回目を終えて参加者も過去最高になり、これからの課題としてハーフ部門の検討とこれに併せて多くのランナーが参加できる大会会場の検討が必要である</p>							
当該年度の取組	<p>平成24年度の第8回大会の参加者のアンケートなどを参考に様々な改善を行ったことにより、過去最高の2,731人の参加申し込みがあった。</p>							
改善案・方向性	<p>現在、ハーフマラソンの導入に向けて、松阪地区陸上協会や関係団体と協議を行っており、会場においても現在一部共用を開始している松阪市総合運動公園を検討している。是非参加者からの要望の多いハーフマラソンの導入を行っていきたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	32	
事業名	体育施設整備事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成24年度	A			
				B			★
				C			
予算・決算	平成23年度決算	2,642 千円	平成24年度決算	42,101 千円	平成25年度予算	12,969 千円	
事業目的	競技スポーツから軽スポーツまで市民が気軽に親しめる多様なスポーツ振興を図ることのできる施設的环境整備を進める。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○嬉野体育センター屋根・外壁工事 ○飯南体育センター外壁他改修工事 ○ハートフルみくもスポーツ文化センター東面外壁防水改修工事 						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>施策の目標でもある競技スポーツから軽スポーツまで市民が気軽に親しめる多様なスポーツ振興を図ることのできる施設的环境整備の中で、競技スポーツ施設の不足や各施設の老朽化による故障・破損等が多くなっていることが課題である。</p>						
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○嬉野体育センター屋根・外壁工事（屋根と外壁の防水加工を行い、雨水による漏水を防止した。） ○飯南体育センター外壁他改修工事(北面部分の外壁の防水加工を行い、雨水による漏水を防止した。) ○ハートフルみくもスポーツ文化センター東面外壁防水改修工事(東面部分の外壁の防水加工を行い、雨水による漏水を防止した。) 						
改善案・方向性	<p>平成24年度に3施設にネーミングライツ契約を行い、施設の維持管理経費の財源確保に努めている。また、利用者の安全安心な環境保全のための施設の改修、さらには平成33年度の三重国体の種目誘致とこれに伴う施設の整備についても、計画的に進めていかなければならない。</p>						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	33
事業名	スポーツ少年団補助金				↑ 達成度 ↓	重要度 →
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成24年度	A		★
				B		
				C		
予算・決算	平成23年度決算	2,420 千円	平成24年度決算	2,301 千円	平成25年度予算	3,000 千円
事業目的	スポーツを通じた子どもの健やかな成長を、地域の力で促進する各スポーツ少年団活動の活性化を図ることを目的とする。					
事業内容	この補助金は、松阪市スポーツ少年団に登録しているスポーツ少年団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助し、下記のとおり算定で支援している。 各登録団へ運営活動費用1団30,000円と日本・県スポーツ少年団登録費(1人あたり団員登録費500円と1人あたり指導者登録費1,400円)を算定基礎として補助する。ただし、1団あたり団員は40名までと指導者は3名までとする。					
複数年にわたる事業の場合進捗度等						
検討課題	スポーツ少年団は、各団が活発に活動することによって青少年の心身の健全な育成を図ることを目的に活動しています。この補助金は、活動に必要な経費、大会に参加する経費等に当てられ団の運営に必要なものと考えています。しかしながら、近年における少子化や社会状況の変化により青少年の余暇の過ごし方が多種多様なる中、スポーツへの関心が低くなりつつあるのも現状です。今後は、インターネットや広報誌などで各地域に登録しているスポーツ少年団を紹介していき登録団数、団員数の増加に協力して行きたいと考えています。					
当該年度の取組	団員1,035人×500円=518千円 指導者138人×1,400円=193千円 53団×30,000円=1,590千円					
改善案・方向性	補助額においては、これまでの交付基準の見直しを24年度に行い、25年度からは6万円を上限に活動経費の2分の1の補助に改め公平性を高めていく。今後は、各地域で新規結成した団体や、未加入の既存クラブなどの加入を図って行きたい。					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号	34
事業名	中部台運動公園施設整備事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成24年度～平成25年度			A	★
予算・決算	平成23年度決算		平成24年度決算	9,231 千円		C	A
事業目的	<p>・ルール改正に伴うコートデザインの変更による総合体育館の改修及び長年の利用による劣化部分の改修を行い、市民の皆様の期待にこたえる。</p>						
事業内容	<p>・松阪市総合体育館競技場改修工事 ・松阪市テニスコート管理棟改修工事</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>・当公園施設の経年劣化による改修は多くなっています。計画的改修を実施していますが、突発的に修繕を要することもあり十分注意し管理に努めたい。</p>						
当該年度の取組	<p>・バスケットボールルール改正に伴うコートラインの改修工事と経年劣化に伴うテニスコート管理棟の改修工事</p>						
改善案・方向性	<p>・当該施設の安全性や利便性を高め、利用者サービスの向上を図っていくことが重要であり継続的に改修等に努めて行きたい。</p>						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	35	
事業名		コミュニティ・スクール推進事業			↑ 達成度	重要度 →	
担当課		学校支援課	事業年度	平成23年度～平成25年度		A	★
予算・決算		平成23年度決算	90 千円	平成24年度決算		75 千円	平成25年度予算
事業目的		保護者及び地域住民の学校教育に対する意見を集約・分析するとともに、地域における教育関係団体等を効果的に活用し、地域性に応じた学校運営協議会のあり方を研究する。					
事業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・育成会、PTA、学校評議員会など、既存の組織を有効活用し、校区の特徴に応じた学校運営協議会のあり方を推進委員会において研究する。 ・研究事業の推進について中学校区単位で連携するため、調査研究校の学校長及び推進担当教員、市教育委員会事業担当者による校区企画会議を毎月開催する。 ・コミュニティ・スクールに対する理解を深めるため、保護者や地域住民を対象に、熟議を活用した意見交換会を8月に校区3校合同で開催する。 ・学校経営品質向上に向けた学校評価システムや学校教育活動を支援する組織づくりについて研修を深めるとともに学校運営協議会を牽引するキーパーソンの育成を図るため、推進委員会を校区ごとに年間8回実施したり、県外視察に行ったりする。 ・学校運営協議会と学校評議員制度、学校関係者評価等との関連を考え、平成25年度の学校運営協議会の設立に向け、規則等を整備する。 					
複数年にわたる事業の場合進捗度等		平成23年度から、文部科学省の委託を受け、第四小学校、港小学校、鎌田中学校において、保護者、地域住民、学識経験者、教職員、行政職員で組織するコミュニティ・スクール推進委員会を設置し、校区の特徴に応じた学校運営協議会のあり方について、研究を進めてきた。保護者、地域住民、教職員を対象に、コミュニティ・スクールに対する意識を把握するため、アンケート調査を行い、その結果を分析し、その後の事業を進める上で活用した。また、制度説明会・講演会を実施し、コミュニティ・スクールに対する理解を深めた。					
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)について、保護者や地域住民の認知度がさらに高まるよう、様々な場面でアピールしていく必要がある。 ・学校関係者評価や学校支援ボランティアなど、学校運営協議会の活動を円滑に推進するための組織体制を整備する必要がある。 ・平成25年度、学校運営協議会が設置されるが、文部科学省の研究指定が終了することに伴い、教員の加配や活動のための予算が削減されてしまうため、新しい方策を考えなければならない。 					
当該年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度導入に向け、学校運営協議会のあり方を研究協議するために、各校において、保護者、地域住民、教職員等によるコミュニティ・スクール推進委員会を年間8回開催した。 ・小中連携型コミュニティ・スクールの実現に向け、高木和久CSマイスターを招聘し、研究校の推進委員長、副推進委員長、学校長及び推進担当教員、市教育委員会事業担当者による校区役員会議を年間8回開催した。 ・研究事業の推進について中学校区単位で連携するため、研究校の学校長及び推進担当教員、市教育委員会事業担当者による校区企画会議を年間11回開催した。 ・コミュニティ・スクールに対する意識高揚を図るため、熟議を活用した意見交換会を開催した。 ・学校関係者評価や学校支援ボランティア等の学校運営協議会の活動やコミュニティ・スクールの機能を効果的に発揮できる環境の整備などについての理解を深めるため、先進地視察を行ったり、文部科学省や県教育委員会が主催する研修会に参加したりした。 ・平成25年4月1日、松阪市立小中学校において学校運営協議会を設置するために、松阪市教育委員会において、「松阪市立学校における学校運営協議会の設置及び運営に関する規則」、「松阪市立学校運営協議会取扱要綱」を制定した。 					
改善案・方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、PTA総会、保護者懇談会を、校区で熟議を活用した意見交換会、全体研修会を開催したり、コミュニティ・スクールだよりを発行したりして、設置された学校運営協議会についての認知度を高める。 ・学校運営協議会委員及び連携校教員を評価委員とし、学校関係者評価を実施する。 ・学校支援地域本部事業との連携を強化し、地域との協働活動を推進する。 ・松阪市立第四小学校、松阪市立港小学校、松阪市立鎌田中学校において、平成25年度も引き続き、文部科学省の委託を受け、実践研究に取り組む予定である。 					

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	36		
事業名	郷土の偉人に学ぶ教育推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
B		★						
C								
担当課	学校支援課	事業年度	平成23年度～平成26年度					
予算・決算	平成23年度決算	290 千円	平成24年度決算	427 千円	平成25年度予算	556 千円		
事業目的	<p>将来の松阪市を担う子どもたちが、松阪市教育ビジョンに示されている「ふるさと松阪に学ぶ教育の推進」等の実現を図る。「郷土の偉人」に学ぶ教育を実践する中で、偉人たちが目指し育ててきた「夢」への営みを学び、郷土に誇りと愛着を持ち、未来を切り拓いていくことができる子どもたちの育成を図る。</p>							
事業内容	<p>「郷土の偉人に学ぶ」シリーズの学習冊子を作成し、小学校高学年を中心とした授業で活用する。 それぞれの冊子において「指導事例集」を作成し、教職員の研修を図るとともに、効果的な活用に繋げていく。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成23年度は教材冊子の作成に向けて、郷土の偉人に学ぶ教育推進協議会を立ち上げ、協議会メンバーによる検討を進めた。平成24年度に「郷土の偉人に学ぶ①本居宣長」を作成し、各学校へ配布した。 平成25年度においては、「郷土の偉人に学ぶ①本居宣長」の授業における活用を目指し、活用事例集を作成、配布するとともに、子ども支援研究センター主催の夏季研修会で教職員対象に活用についての研修を行う予定である。また、第2弾として、松浦武四郎の冊子を作成するべく、取組をはじめている。</p>							
検討課題	<p>平成26年度に作成する人物の選定が検討課題となっている。また、作成された冊子を活用した学習活動の取組を継続して行っていくことが重要である。 さらに、現在は学校保管で貸与による学習となっている冊子について、教科書と同様に子どもたちが自分たちの手に取ることができるような方策を講じたい。</p>							
当該年度の取組	<p>プロジェクトチームを編成し、学識者の指導助言を行いながら、平成24年度は、「本居宣長」の教材冊子を作成した。さらに、平成25年度に「郷土の偉人」として教材冊子をつくる人物の選定や、作成した「本居宣長」の教材冊子の活用の仕方、「郷土の偉人に学び授業」の展開の仕方を協議し、授業へと繋げる構想を作っていた。</p>							
改善案・方向性	<p>作成された学習冊子を今後、子どもたちの学習活動に継続的に生かしていけるよう指導事例集を作成しそれに追加・修正を加えながら、有効活用を図っていく。 また、「郷土の偉人に学ぶ①本居宣長」については、学校関係者のみならず、松阪の文化に係る資料として問合せも多く、今後、本居記念館での取扱い等、文化や観光分野との連携も可能性として考えられる。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	37		
事業名	小学校防災防犯対策事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
						B		
						C		
担当課	教育総務課	事業年度	平成24年度					
予算・決算	平成23年度決算	千円	平成24年度決算	16,407	千円	平成25年度予算	千円	
事業目的	三雲管内には、高い建物が少なく、津波時における緊急避難場所とするため、鵜小学校に屋上への外階段と屋上フェンスを設置する。							
事業内容	鵜小学校の屋上を津波時の緊急避難場所とするために、屋上へ上る外階段と屋上にフェンス(約135m)を設置する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	工事期間中の児童、教職員等の安全確保や学校施設の使用制限などについて、学校関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。							
当該年度の取組	鵜小学校に屋上への外階段と屋上フェンスを設置した。							
改善案・方向性	平成25年度に実施する小野江小学校校舎増築工事に伴う既設校舎改造工事において、屋上への外階段と屋上フェンスを設置する。 今後は、施設の適正な維持管理に努めたい。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	38		
事業名	天白小学校校舎増築事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		
担当課	教育総務課	事業年度	平成23年度～平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	7,403 千円	平成24年度決算	127,767 千円	平成25年度予算			
						千円		
事業目的	<p>天白小学校区内では、宅地開発が進み人口が急速に増加し、これに伴い小学校への入学者が急増し平成25年度以降の教室不足が生じることから校舎増築を行う。 校舎増築工事を行うことで、教室不足が解消でき教育環境の整備充実が図られる。</p>							
事業内容	<p>平成23年度に増築のための実施設計と地質調査を行い、平成24年度に普通教室4教室の増築工事と既設校舎の改修工事を実施する。 増築校舎:鉄骨造2階建て 614㎡</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成23年度に増築のための実施設計と地質調査を行った。 平成24年度に普通教室4教室の増築工事と既設校舎の改修工事を実施し、計画通りに事業を完了することができた。</p>							
検討課題	<p>工事期間中の児童、教職員等の安全確保や学校施設の使用制限などについて、学校関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。</p>							
当該年度の取組	<p>天白小学校校舎増築工事監理業務委託 工期:平成24年6月26日～平成25年2月28日 天白小学校校舎増築工事 工期:平成24年6月26日～平成25年2月28日 校舎増築に伴う備品、消耗品購入 増築校舎については、地元自治会からの要望のにより屋根を陸屋根として屋上にフェンスを設置し、緊急避難場所とした。</p>							
改善案・方向性	<p>「住民基本台帳に基づく校区別児童・生徒年度別調べ」によると、今後も児童数の増加が見込まれるため、児童数推移を注視していきたい。 また、校舎増築工事が完了したため、今後は施設の適正な維持管理に努めたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号	39
事業名	小野江小学校校舎増築事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	教育総務課	事業年度	平成24年度～平成25年度			A	★
						B	
					C	B	A
予算・決算	平成23年度決算	千円	平成24年度決算	8,894 千円	平成25年度予算	275,416 千円	
事業目的	<p>小野江小学校区では、宅地化が進んでおり、校区内の人口が増加し、これに伴い児童数の増加が予測される。平成25年度以降、新入児童の学級数が2学級となり教室不足となるため平成24年度に校舎増築のための実施設計と地質調査を実施し、各学年2学級に対応できるよう平成25年度に増築工事(6教室)と教員増に対応するため既設職員室等の改造工事を実施する。</p> <p>増築工事を実施することで教室不足が解消でき教育環境の整備充実が図られる。</p>						
事業内容	<p>平成24年度に増築のための実施設計と地質調査を行い、平成25年度に普通教室4教室、特別支援教室、パソコン教室の増築工事と既設校舎の改造工事を実施する。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成24年度に校舎増築、既設校舎改造工事のための地質調査と実施設計業務を行った。</p> <p>平成25年度に校舎増築工事(普通教室4教室、特別支援教室、パソコン教室)と既設校舎の改造工事(校長室、職員室、理科室等)を実施する。</p>						
検討課題	<p>工事期間中の児童、教職員等の安全確保や学校施設の使用制限などについて、学校関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。</p>						
当該年度の取組	<p>小野江小学校校舎増築工事地質調査業務委託 工期:平成24年5月1日～平成24年5月31日 小野江小学校校舎増築工事实施設計業務委託 工期:平成24年7月18日～平成25年3月21日</p>						
改善案・方向性	<p>平成25年度に校舎増築工事を行うことにより、各学年2学級となることには対応でき、当面小野江小学校の教室不足は解消されるが、今後も「住民基本台帳に基づく校区别児童・生徒年度別調べ」による児童数推移を注視していきたい。</p>						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	40	
事業名	中学校防災防犯対策事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	教育総務課	事業年度	平成24年度			A	★
						B	
						C	
予算・決算	平成23年度決算	千円	平成24年度決算	3,870 千円	平成25年度予算	千円	
事業目的	三雲管内には、高い建物が少なく、津波時における緊急避難場所とするため。						
事業内容	三雲中学校の屋上にフェンス(約190 m)を設置し、津波時の緊急避難場所とする。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	工事期間中の生徒、教職員等の安全確保や学校施設の使用制限などについて、学校関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。						
当該年度の取組	三雲中学校の屋上にフェンスを設置した。						
改善案・方向性	今後は、施設の適正な維持管理に努めたい。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号	41
事業名	鎌田中学校校舎改築事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	教育総務課	事業年度	平成23年度～平成32年度			A	★
						B	
						C	
予算・決算	平成23年度決算	3,393 千円	平成24年度決算	20,302 千円	平成25年度予算	3,232 千円	
事業目的	教育環境ならびに教育条件の整備充実を図る。						
事業内容	築54年と52年が経過し老朽化が著しく、教育環境整備のために校舎改築を行う。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成23年度に耐力度調査、境界測量を行った。 平成24年度に建物調査を行った。						
検討課題	鎌田中学校校舎改築事業は、平成24年度の建物調査等により、また、平成25年度に営業調査により補償額を決めるが、用地買収・造成工事・建築工事等に概算で34億円ほどの事業費を必要としている。(平成23年度～31年度)						
当該年度の取組	建物調査の実施。						
改善案・方向性	平成25年度について隣地にかかる土地鑑定、営業調査の実施。						

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	42		
事業名	幼稚園防災防犯対策事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	千円	平成24年度決算	1,959 千円	平成25年度予算	千円		
事業目的	幼稚園の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼ることで、地震時等に窓ガラスが破損し、割れたガラスで園児等がケガをすることを防止する。							
事業内容	休園(2園)と改築中の豊田幼稚園を除く市内20幼稚園の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	購入した飛散防止フィルムを学校校務員会の共同作業で幼稚園の窓ガラスに貼るため、事前の準備と各幼稚園との日程調整が必要。							
当該年度の取組	園舎窓に飛散防止フィルムを貼った。							
改善案・方向性	園生活における園児等の安全・安心を確保するため維持管理、整備を行う。							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	43		
事業名	幼稚園空調設備整備事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成24年度			B		
						C		
予算・決算	平成23年度決算	千円	平成24年度決算	7,870 千円	平成25年度予算	千円		
事業目的	<p>本庁管内の大石幼稚園、嬉野管内4幼稚園、三雲管内2幼児園の3才児保育室には、すでに空調設備が整備されおり、すべての3才児保育室(本庁管内4幼稚園)への空調設備の設置を行うことで、教育環境の充実と統一が図られる。</p>							
事業内容	<p>本庁管内4幼稚園(伊勢寺幼、西黒部幼、松尾幼、射和幼)の3才児保育室(8室)に空調設備を整備する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>平成24年度は、幼稚園やPTA等から空調設備設置の要望が非常に強かった3才児保育室へ空調設備の導入を行った。 空調設備の設置には、多額の導入経費とランニングコストがかかるが、導入に向けた検討をしたい。</p>							
当該年度の取組	<p>本庁管内4幼稚園(伊勢寺幼、西黒部幼、松尾幼、射和幼)の3才児保育室(8室)に空調設備を整備した。</p>							
改善案・方向性	<p>3才児保育室への空調設備の導入を行ったため、今後は、設備の適正な維持管理に努めたい。</p>							

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号	44
事業名	豊田幼稚園園舎改築事業					↑ 達成度 ↓	重要度 →
担当課	教育総務課	事業年度	平成23年度～平成25年度		A		★
					B		
					C		
予算・決算	平成23年度決算	5,935 千円	平成24年度決算	63,831 千円	平成25年度予算	92,309 千円	
事業目的	<p>豊田幼稚園の園舎は、昭和53年12月に建築され老朽化が進んでいる上に、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震性能が基準を下回っていることから園児等の安全安心を守り、幼稚園教育の環境改善を図る園舎改築工事を実施する。</p>						
事業内容	<p>平成24年8月20日から平成25年6月28日の完成をめざして園舎改築工事を実施している。 新園舎：鉄骨造平屋建て 453㎡ 改築期間中、園児は、隣接する豊田小学校の校庭内に建設された仮設園舎で幼稚園生活を送っている。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成23年度に改築工事のための実施設計と地質調査を行った。 平成24年度～25年度に園舎改築工事を実施する。</p>						
検討課題	<p>園舎改築工事を進める当たっては、工事期間中の園児、教職員等の安全確保や幼稚園施設の使用制限などについて、幼稚園関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。 また、仮設園舎を隣接する豊田小学校校庭に建設するため、園児、児童の幼稚園、学校生活等に不都合が生じないように幼稚園、学校、工事関係者との協議を十分に行っていく。</p>						
当該年度の取組	<p>豊田幼稚園園舎改築工事（建築）（機械設備）（電気設備） 工期：平成24年8月20日～平成25年6月28日 豊田幼稚園園舎改築工事監理業務委託 工期：平成24年8月28日～平成25年6月28日 豊田幼稚園仮設園舎賃貸借 賃貸借期間：平成24年9月1日～平成25年8月31日</p>						
改善案・方向性	<p>平成25年6月にこの園舎改築工事が完成すると、市内のすべての幼稚園の園舎耐震化が完了する。</p>						

4 総評

6つの夢ナビゲーション別のそれぞれの事業の達成度は、概ね「達成できた」であるが、「概ね達成できた」となる事業もいくつかあり、課題を十分に検討するとともに、「達成できた」を目指し継続的に取り組んでいきます。

夢ナビゲーションを実現するため、教育委員会事務局との一層の連携を図り、学校教育現場や文化施設等をできる限り訪問し、情報収集、意見交換を行うことで、今後の教育施策に反映させていきたいと考えます。

また、子どもたちや市民のために、「質の高い教育、文化にふれあうまちづくり」を実現するために各事業の取り組みを進めます。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1. 委員選任状況

教育行政の一層の活性化や更なる充実を図るため、教育現場の現状や地域の実情に通じ、広い視野から教育について考えていただける方1名を小中学生の女性の保護者から公募し、14名の方から応募をいただきました。選考に関しては、外部選考委員3名、内部選考委員3名からなる選考委員により、公平性、透明性のある審査を行いました。

(平成25年3月末現在)

職名	氏名	任期
委員長	長谷川直樹	自 平成22年2月26日 至 平成26年2月25日
委員長職務代理者	長島喜久雄	自 平成23年2月26日 至 平成27年2月25日
委員	西川 和夫	自 平成24年2月26日 至 平成28年2月25日
委員	伊藤 和代	自 平成25年2月26日 至 平成29年2月25日
教育長	東 博武	自 平成25年3月25日 至 平成29年3月24日

※教育委員（教育長を含む。）任期は4年間。

2. 会議の開催状況

定例会	12回（毎月1回）
臨時会	3回

3. 審議状況

ア 付議案件数

議案	15件
報告	67件

イ 審議された主な議案等

- (1) 教育委員会規則等の制定・改正に関すること。
- (2) 人事に関すること。
- (3) 教育施策に関する基本的な方針に関すること。
- (4) 市議会に提出する予算等に関すること。
- (5) 文化財に関すること。
- (6) 審議会等委員の委嘱に関すること。
- (7) 教育委員会事務局各課の事業に関すること。
- (8) 児童生徒の問題行動等に関すること。

4. 研修及び学校訪問等

先進地の教育、教育行政を視察・研修するため、福井県福井市の一乗谷朝倉氏遺跡と福井市立順化小学校を視察しました。一乗谷朝倉氏遺跡では文化財保護の方針や、地域の伝統行事、文化遺産の価値を認識し、次世代へ継承していく施策について学びました。様々なツールによる情報発信や、イメージアップ素材の活用等、今後の活動の参考になりました。

順化小学校では、1・2年生の授業参観の他、福井型コミュニティ・スクールについて、活動の報告や学校評価についての意見交換を行いました。

また、松阪市に寄贈され、整備が進められた旧長谷川邸の施設視察を行い、関係職員から説明を受けました。

市内の教育現場を直接見聞する機会として、三雲中学校で行われたフューチャー・スクール実践授業を参観し、情報機器の授業での有効活用について学ぶ大変良い機会となりました。

IV 第三者評価

1. 第三者評価委員

名 前	所 属 等
田川 敏夫	元三重中京大学客員教授 (元松阪市教育ビジョン構築検討委員会委員長)
梶間 裕司	松阪市社会教育委員長
太田 憲明	松阪市 PTA 連合会会長

2. 第三者評価の総評

【田川敏夫委員】

(1) はじめに

平成 25 年度「教育委員会活動の点検・評価報告書」は、言うまでもなく平成 24 年度の活動状況について、点検・評価を行うものである。その結果を公表し、次年度以降の事業計画の策定及び実施に資することを目的としている。従って、この報告書は 24 年度の点検・評価を 26 年度に活かすということになるのであろう。

松阪市教育委員会は平成 19 年度に「松阪市教育ビジョン策定委員会」を設置し、1 年間の審議を経て、以後 10 年間の松阪市の教育構想を構築する「松阪市教育ビジョンー夢ナビゲーション」を策定した。その後、6 年間の年月が過ぎたが、各年度の事業は全てこの「松阪市教育ビジョン」に基づいて計画されていると言える。平成 30 年度を 10 年間の一区切りとして、その成果を検討し、統括のうえ、時代の進展を踏まえ、新しい次の教育ビジョンの策定も必要になってくるのであろう。

ともあれ、平成 24 年度はちょうど中間の折り返し地点になる。そうした視点での点検・評価の年度でもある。

総合評価としては、松阪市の教育委員会活動は、所期の「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続ける子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の子ども像実現のために、着実に各事業を展開しているといえる。しかし、「点検・評価報告書を第三者が見た際にわかりやすいものとなっているか」という観点から見れば、いくつかの問題もあることから、次に具体的に述べてみる。

(2) 各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表について

事業数（シート番号）は、平成 23 年度と比べて同数の 44 項目であるが、事業内容はいくつかのスクラップアンドビルドがある。

まず、「学力向上推進プロジェクト事業」（23 年度シート番号 2）がなくなっている。平成 19 年度から継続してきている事業であり、基礎学力の向上はどの時代においても重要課題であり、まして、近年の国における全国学力調査においては、三重県が全国平均からかなり下回っている現状からみても、「第三者ーこの場合は一般市民とみてーのわかりやすさ」を踏まえての理由説明があるのではないか。他の事業への振り替えであれば、そ

のシートの項目の中で、説明すればよいと思う。

単年度で、各事業を見ているとわからないことも通年でみていると「なぜ」ということがでてくる。その必然性を説明するのも点検・評価の一つになると思われる。

次に「外国語指導助手（ALT）派遣事業」（23年度シート番号7）もなくなっている。事業予算2,800万円の大きな事業であり、松阪市だけが外国人英語指導の先生の受け入れをしなくなったとは考えられないので、他の部局の事業になったのだろうか。

三点目は、松阪市教育事業の大きな目玉である「フューチャースクール推進事業」（23年度シート番号8）が「学びのイノベーション事業」（24年度シート番号5）になったが、これは発展的の改革と言える。

検討課題にも「今後、フューチャースクール推進事業とも連携しながら松阪市独自の取組を進めていくとともに、その取組をどのように各校へ展開していくかが重要な課題である」と述べられているが、まさにそのとおりだと思う。東海地区でも初めての国の指定校（三雲中学校）を受け、全国的にも注目されている実践研究なのだから、指定校だけの先進的研究とはせず、ぜひ松阪地区全体の教育実践として共有して欲しいと思う。24年度は授業参観にも多数参加があったとのことであるが、年1回の公開ではなく、常に公開されている位の態勢をつくっていき、松阪の教育の先進性を示していくべきだと考える。

他にもいくつかの改変があるが、主要な項目については、シートによる点検・評価では示しきれないと思われるので、「総評」の項目でもよいから、全体的な説明があると「第三者」にもわかりやすいと思う。

「事業年度」の表記についてであるが、継続事業の年度の表記の方法はさらに一工夫が必要であろう。

最初の説明で「事業年度の最終年度が未定の場合については平成25年度と表記します」とあるが、やはり25年度までの事業と誤解される恐れがある。「当年度」「継続予定」などの表記も考えられる。「第三者」にもわかりやすくという配慮は小さなことでも検討していただければと思う。

3. おわりに

教育委員選任については全国的にも珍しく、小中学生の女性の保護者の公募を行い、1名の募集に対し、14名の応募があり、外部選考委員による選考により決定されたとのことである。

教育委員会は特定の事業を除き、常に公開、透明性を原則としている。「教育は人である」とよく言われるが、「教育委員会もである」。市民による意思決定を大切にし、松阪市教育委員会が全国でも先見性のある教育委員会に発展することを切に願うものである。

【梶間裕司委員】

限られた予算の中で重要度の高い事業に絞った取り組みがなされております。達成度もほとんどの事業でAランクになっており、担当者の努力に敬意を表します。

○特色ある学校・園づくり推進事業

地域の教育資源の活用では、各学校の事情や指導時間数等の制約もありますが、各地で結成された住民協議会との連携を取り入れられるのも一つの方法だと考えます。

○いじめ等対策事業

早朝読書が多くの学校で取り入れられており、心を落ち着かせた一日のスタートができるので、一層の充実を期待したい。特に、課題を抱えた子ども達は、自分の思いを自分のことばや文章で相手に伝える力が不足がちで、つい暴力等に訴えることにつながりがちです。自分の思いを相手に伝えられる表現力を身に着ける取り組みを一層推進してほしい。

○生涯学習振興事業

各公民館を中心に推進されておりますが、今後一層充実していかなければならない分野であり、特に指導者やリーダーの育成に一層努力していく必要がある。なお、時代の要請にマッチした施設の充実にも取り組んでいただきたい。

○安心・安全な通学路の整備について

ほとんどの通学路が、昔からの歩道と車道の区別のない狭い道路を利用しておりますが、小規模の団地等ができ、通勤時に信号のないこれらの道路を利用される自動車が多くなり、通学する子ども達が危険にさらされております。各地域では自治会を中心に登下校指導をしていただいておりますが、子ども達だけで安心して通れる通学路の整備に取り組んでいただきたい。

【太田憲明委員】

総合評価が概ね「A」になっていることは良いことだと思います。それぞれの検討課題について、どう対応していくのか等、更に協議を深めていく必要があると感じます。

また、第三者から見てわかりやすいという観点から考えると、表記の方法等、細部についても今一度検討の必要があるのではないのでしょうか。

V おわりに

事業評価の結果、達成度で A が 75%、重要度で約 98%、総合評価で 75%となり、どの事業も重要度が高く、計画どおり事業を進めることが適当という評価になりました。しかし、達成度及び総合評価において、A が 75%にとどまっており、事業目的達成へ向け、各事業の課題を十分に検討し、次年度へ活かしていく必要があります。

また、第三者評価でご指摘いただいたように、第三者から見てわかりやすい報告書の作成を目指し、表現方法や評価方法について改善していく必要があると考えます。

今回、教育委員の公募において小中学生の保護者かつ女性という限定があるなか、14 名の応募をいただきました。教育委員会は決して遠い存在ではなく、身近な存在であることを感じていただけるよう、開かれた教育委員会を目指し、責任ある教育行政の推進に努めてまいります。